

那覇市 NPO 活動支援センター 平成 20 年度 事業報告書



指定管理者
特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく

平成 21 年 4 月

はじめに

平成 20 年 4 月より那覇市 NPO 活動支援センターの指定管理者として、NPO 法人まちなか研究所わくわくが管理運営を担うこととなりました。私たちは「みんなで決めてみんながつくるそんな社会づくりのお手伝い」を合言葉に市民参加の場づくりを、まちづくりや NPO 支援の領域で行ってきた NPO です。

今回、私たち指定管理期間である 3 年間の目標として「NPO とつくる元気な沖縄プロジェクト～市民の力を引き出し、次の 10 年を描く～」としました。特定非営利活動促進法が施行されて平成 19 年 12 月で 10 年、また平成 20 年は那覇市 NPO 活動支援センターが設置されて 10 年と NPO・市民活動にとっては節目の時期となります。那覇・沖縄の NPO・市民活動のこの 10 年で活動はどのように広がったのか、そして今後市民社会を構築していくために必要な社会環境としてどのような仕組みが必要なのか。また、那覇市 NPO 活動支援センターに今求められる機能は何か。NPO・市民活動の皆さまと一緒に考える場をつくりその仕組みや制度づくり取り組んでいけるようにします。

さて、このようななか派遣切り、格差社会、ワーキングプア、障がい者の自立支援、医療格差、少子高齢化、地球温暖化、地域コミュニティの崩壊など個人や社会、地域や世界規模の至るところで社会課題のキーワードがマスコミ紙面をにぎわしており、NPO も日々紙面に登場しています。ますます NPO が取り組むべき社会課題が増えてきています。そのような課題が増える中、NPO 単独だけの取り組みだけではなく、行政セクター、企業セクター、市民セクターが協力して課題解決に取り組むスキームが必要となっております。

そこで、平成 20 年度は、これまでの那覇における NPO・市民活動の 10 年を振り返る年と捉え那覇の地域課題を考える NPO サロン、新しい公共における活動団体の資金支援策についての調査研究、各 NPO マネジメント講座、機関紙「まちからコラボ」などを実施し、行政や企業、NPO の皆さまと一緒に考える機会を数多くつくりそこからのネットワークや事業展開などが見えてきました。それらの事業成果と次年度に向けての課題をまとめました。

那覇市 NPO 活動支援センター
(管理運営 / NPO 法人まちなか研究所わくわく)
小阪亘

目次

はじめに

目次

1. ハイライト

1-1 那覇市のNPO・市民活動の10年をふりかえって

1-2 事業トピックス

(1) 公開座談会！那覇市長と語るNPOの未来

(2) 「就労支援遺骨収集」NPO事務局サポート

(3) 「支援を募る前に足もとを固めよう！」なはセンのNPOマネジメント講座

(4) NPOへの資金提供プログラム担当者連絡会

1-3 今年度をふりかえって（主要な成果と課題） ふりかえりMTより

1-4 利用実態の推移と利用者の声

2. 特集 那覇の協働フリーペーパー「まちからコラボ」

3. 事業成果と課題

3-1 「参加と対話のプラットフォーム」事業

3-2 「課題解決のためのパートナーシップ」事業

3-3 「NPO情報市場」事業

3-4 「NPOゆいまーるファンド」事業

3-5 「企業活力」事業

4. 収支概要

5. 運営について

5-1 事業推進体制

5-2 スタッフミーティング

6. 資料編

6-1 事業評価シート

6-2 年表

6-3 各事業関係チラシ&資料

1. ハイライト

1 - 1 . 那覇市の NPO・市民活動の 10 年をふりかえって

当センターが設置され 10 年を迎える。平成 20 年度を那覇市における NPO・市民活動の 10 年をふりかえる 1 年と位置づけて調査や団体の声を拾ってきた。いくつかの社会背景に分けてこの 10 年の変化についてふりかえる。

NPO

- 1998 年に NPO 法が施行されて 10 年が経過し、全国で 36826 法人、沖縄県においても 355 法人（平成 21 年 2 月 28 日現在）が設立され、那覇市内に事務所を置く NPO 法人も約 130 団体に上る。NPO・市民活動で活躍する市民層は着実に増えている。
（参照：次頁グラフ・表～那覇市内 NPO 法人実態調査より～）
- NPO は、組織としての力は弱く企業、行政との組織間での連携においては、運営ノウハウがまだ蓄積されておらず組織マネジメントの強化の必要性がある。
- NPO・市民活動も全て公益性の高い活動をしているわけではない。

行政施策

- 那覇市では第三次総合計画に「市民との協働」が掲げられ、以来 NPO・市民活動との協働への取り組みがなされているが、委託事業費や協働の関係づくりにおいて課題が多いのが現状。
- NPO 活動支援の 2 本柱として、1999 年に那覇市 NPO 活動支援基金がスタート、2000 年に那覇市 NPO 活動支援センターが開所し、現在まで継続されている。

社会環境

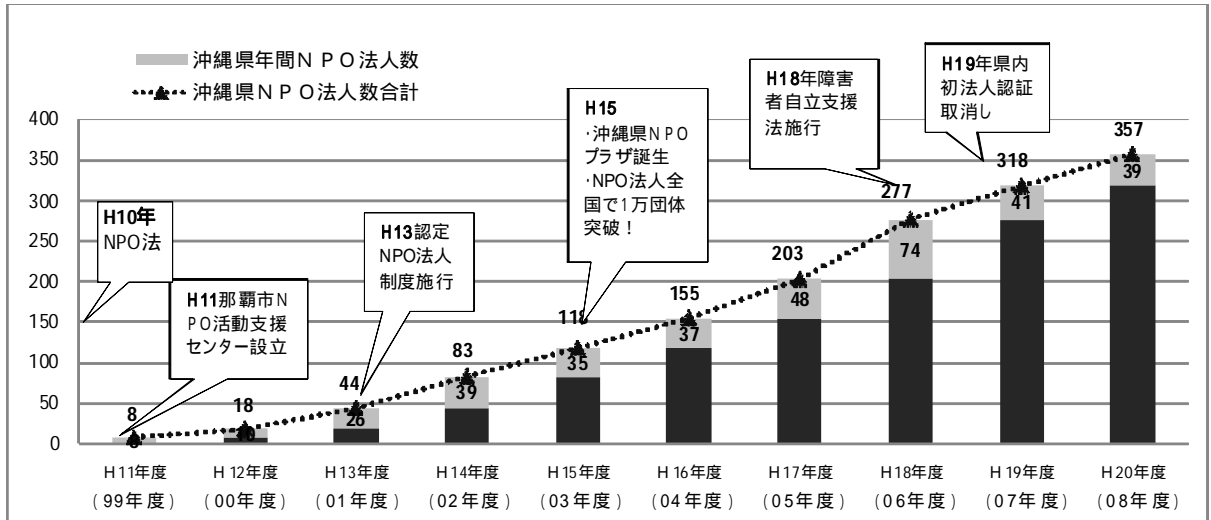
- NPO・市民活動を支える社会環境（人・物・金・情報）の整備や他セクター（行政、企業）との関わりはまだ少ない。
- NPO は、企業のような資本金、行政のような公共性を持っているわけではなく、NPO セクターとして社会の信頼を構築していくための透明性の高い情報公開とその仕組みが求められている。
- 琉球新報や沖縄タイムスに NPO が記事として掲載される件数が 10 件をこす日もあり、NPO という存在が一般的に知られてきている。一方で、NPO という言葉は聞くけど実態がわからない、ボランティア団体との違いがわからないなどの実態と認識のギャップは広がっている。
- NPO 向け助成プログラムについては金融機関を中心として 12 のプログラムが確認でき、年間総額 7800 万円もの資金が市民活動・NPO に投入されるまでに大きくなってきている。ただし、その成果の検証や情報発信のインフラの整備はこれからの状態である。

企業セクター

- 企業との連携においては、NPO 向けの助成金のプログラムや個別での事業連携などが見られるようになってきた。

那覇市内 NPO 法人実態調査

1. 沖縄県NPO法人数と社会の動き



2. 那覇のNPO法人の実態

～平成19年度事業報告書より～

(調査方法: 沖縄県への情報公開資料を基にデータ収集、調査期間: 2009年3月16日～20日)

那覇市に事務所をおく
NPO法人: 131団体 (沖縄県内357法人の36%)

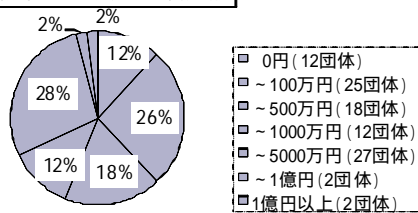
131団体 (那覇市NPO法人数)
- 23団体 (平成19年度報告書未提出数)
- 10団体 (平成20年度設立法人数)
計 98団体

意志決定に関する人数
正会員 総数: 1,320名 平均 14名
理事 総数: 639名 平均 7名

平成19年度収入 総額 10億5,294万円

おきなわ市民活動NPO便利帳
掲載任意団体数: 57団体(那覇市)

那覇市NPO法人の収入額



* 那覇市の年間商品販売額
(那覇市19年度商業統計調査より)

計	92,201,616万円
卸売業	61,604,378万円
小売業	30,597,238万円

総収入トップ3

1. 135,516,344円
2. 111,442,424円
3. 66,545,573円

寄付金トップ3

1. 6,667,461円
2. 3,244,398円
3. 2,364,000円

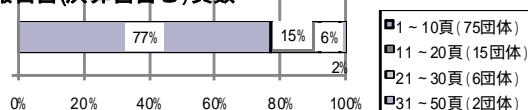
会費トップ3

1. 7,245,000円
2. 3,960,000円
3. 3,660,000円

事業収入トップ3

1. 107,674,533円
2. 65,518,231円
3. 60,731,000円

事業報告書(決算書含む)頁数



事業報告書(決算書含まない)の頁数は1～2枚の団体が多い。

1-2. 事業トピックス

1) 公開座談会！那覇市長と語るNPOの未来

那覇市 NPO 活動支援基金と那覇市 NPO 活動支援センターが設置されて 10 年が経過した。今後那覇市はどんな社会を目指し、NPO の役割や位置づけをどのように考えていくのか。翁長那覇市長と那覇で活動する NPO で話し合う公開座談会を開催した。

翁長市長は「今三期目、協働のまちづくりの総仕上げということで、実践者を増やしていきたい。支援のあり方、助成金はどうあるべきか、対等とはどういうことか、NPO とボランティア、NPO と企業の違いを考えながら議論したい」という話からスタートし、「行政として改めるべきところは改める。そのためにも、市民、NPO と行政とが積極的に対話をし、お互いに理解を深めてほしい。その中から、工夫をしながらいいカタチでなはのまちづくりを進めていきたい。このようなお互いの議論の場づくりは、これからも続けていき、実りあるまちづくりをしていきたい」と締めくくった。

参加した NPO からは「他の団体の意見や現状、課題を聞け、なにより市長の話の聞けたことがよかった」「これを機会に環境・教育・福祉など部門ごとの会も開催してほしい」「顔が見える関係って本当に大切ですね」という声があがった。こうした NPO と市長の対話の場面がこれまでは少なかったこともあり、継続して場づくりをしたい。



2) 「就労支援遺骨収集」NPO事務局サポート

沖縄県那覇市真嘉比地区の区画整理事業にともない、日曜ボランティア（無償）で実施している遺骨収集活動を沖縄県民とくに生活困窮者の雇用支援になるよう、また尊厳をもって遺骨を扱い遺品の身元確認につなげられるよう、NPO が主体となり行政との協働で行おうとするもの。現在、舩添厚生労働大臣からの提案により、緊急雇用対策事業として事業計画を立案中である。那覇市 NPO 活動支援センターは、本事業の NPO 連絡協議会事務局(2009 年 2 月 24 日設立)として NPO 間の連携や関係する NPO への呼びかけといった連絡調整業務、各種文書作成業務、マスコミ等への情報発信および対応、市民からの問い合わせ対応、行政への働きかけなどの後方支援業務、を行っている。



3)「支援を募る前に足ともを固めよう！」なはセンのNPOマネジメント講座

NPO が支援を得ていくためには共感は大切。2009年2月22日(日)に松本修一さん(V・マネジメント代表)を講師にお招きして講座を開催した。10団体から17名の参加があり、共感のマネジメントを学び、団体のミッションについて見なおし、ミッションに沿った活動が展開できるよう団体の土台づくりについて考えた。



午前中は松本さんから「共感のマネジメント(マネジメントとは何か)」というテーマで講話いただいた。「マネジメントに正解はない」「オリジナルのマネジメントをつくる」についてふれ、自分なりのマネジメントを確立してくださいと話をされた。また、マネジメントを展開するときのキーワードとして、「なぜ？」をくりかえすこと、そして、「なぜ？」と「どうするのか？」を繰り返すことを挙げ、原因を追求すること、戦略を考えることをポイントとして話された。

午後は、それぞれ団体のミッションを見なおし、目標をたて、目標を達成するために何をしていたらいいのか、「戦略シート」に落とし込む作業を行った。参加者からは、「組織に対してミッションとどう活動が繋がっているのか伝えたい」「目先の事業(仕事)をこなすこと(緊急性)に向けてミッションが抜け落ちていたのではと反省した」という声が上がられた。

4)NPOへの資金提供プログラム担当者連絡会

NPO や市民活動団体への資金支援のあり方と地域での資金循環について考える「NPO への資金提供プログラム担当者連絡会」を2月と3月に開催した。



第1回連絡会は、沖縄県内の民間助成プログラム担当者6名が参加され、それぞれの助成プログラムを知り、抱える悩みや課題を共有した。事前の調査で確認できた12の助成プログラムの年間助成総額が7800万円に上ることも共有し、これだけの金額が投入されている実感を得るための成果検証や情報発信の仕組みが必要だ、という意見も出された。

第2回連絡会は、全国エリアを対象とする助成金プログラムの作成を手がける古瀬繁範氏(NPO 法人地球と未来の環境基金)を講師にお迎えし、NPO の資金ニーズから助成事例、助成プログラムの制度設計について学んだ。団体を助け、成長させる助成金でなければならない、という点を共有し、次年度も連絡会を継続していくことで終了した。

1 3. 今年度をふりかえって

フリースペースの開設

4月にセンターの施設内レイアウトを大幅に変更し、その一環で打ち合わせや作業スペースとしてフリースペースを開設した。センターの年間来館者総数 8617 人の利用のうち、会議室、施設利用に次いでフリースペース利用 753 人となり、団体の活動拠点として利用人数が大きく伸びた。無線 LAN も合わせて設置したことから団体の立ち上げ期の活動拠点として今後活用されることが期待される。

インターン受け入れによるセンター運営

施設運営・事業サポートのための人材をインターンという形で受け入れた。NPO に関わりたいという意欲を持った人材がセンターの事業を通じてステップアップし、卒業した後もセンターのサポートメンバーとして継続して関わられるような体制の一步を踏み出すことができた。

個人の生活相談が増加

生活するお金がない、食べるものがない、住むところがない、など個人からの生活困窮に関わる相談が増加した。ホームレス支援を行っている NPO を紹介したり、社会福祉協議会が行っている貸付事業を紹介するなど対応したが、那覇市行政や那覇市社会福祉協議会から紹介されたということで相談に訪れる方もおり、関係機関との情報共有、連系の必要性が出てきている。

NPO の事務局サポートを展開

広く参加者募集しての講座も開催したが、うないフェスティバルの開催や遺骨収集による就労支援など、個別の現場へ出向き、イベント事務局やマスコミ対応、書類作成などの事務局サポートを行った。次年度は、事務局のノウハウを団体に移転していくハンズオン支援として位置付け、展開していく。

市民協働推進課との協働プロジェクト実施

那覇の協働フリーペーパー「まちからコラボ」の編集・発行や「多様な主体との協働による政策研究事業」などセンター所管である市民協働推進課とチームを組んでプロジェクトを進める機会をつくることができた。

社会資源の循環を目指した、公益情報の収集・発信・蓄積

地域の公益情報を収集・発信し、データベース化する沖縄版のポータルサイトの構築を目指し、FM なはや沖縄県、那覇市、沖縄県ボランティア・市民活動支援センター、シーポイントなどの官・民の関係機関と勉強会を重ねた。平成 21 年度は実現に向けて動き出す体制をつくるという段階まで進めることができ、沖縄版地域公益ポータルサイトの構築に向けスタートをきることができた。



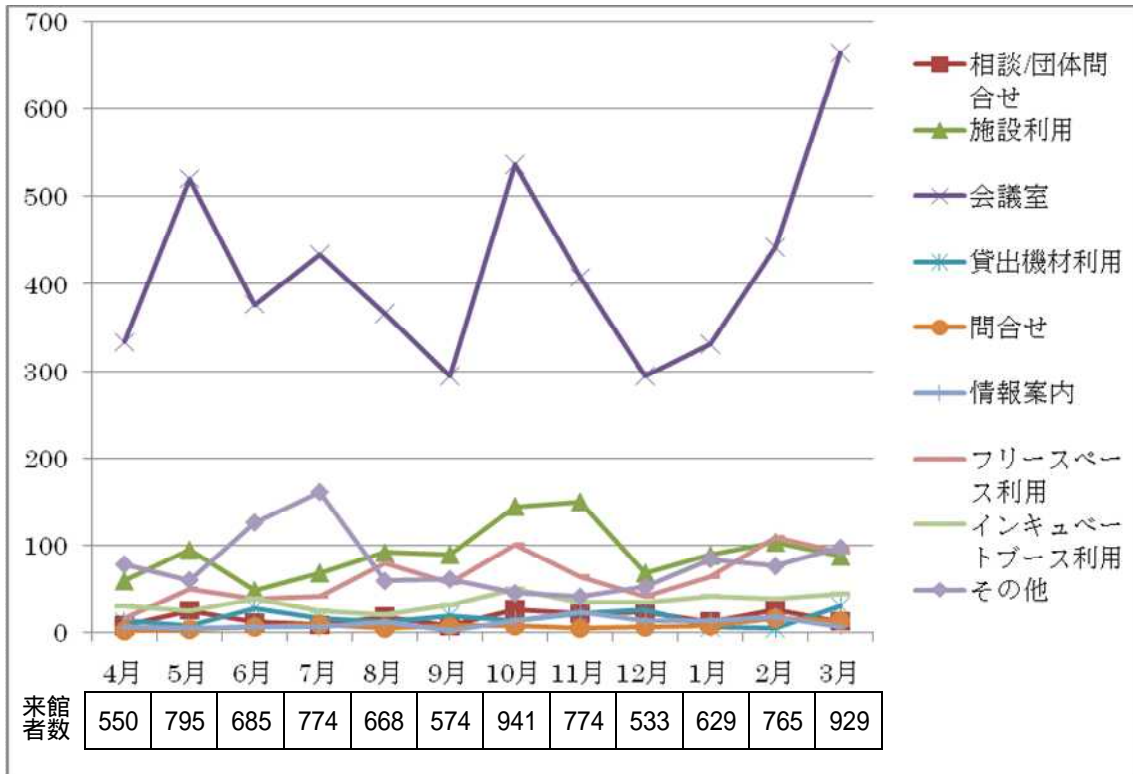
地域公益ポータルサイトを実現する会ミーティング



まちからコラボ取材（センター・フリースペースにて）

1 - 4 . 利用実態

1) 利用実態の推移



2) 利用者の声

【施設利用者】

- ・夜 10 時まで空いていて、解放的使いやすい。常時使えるパソコンがほしい。
- ・団体情報がそろっていて参考になる。
- ・駐車料金がかかる。もっと安かったらいいなと思う。
- ・作業スペースがあり、無線ランもとんでいるので使いやすい。

【講座参加者】

- ・制度や、うまくいっている例だけでなく、現在の問題の話もしてほしい。基礎となる部分が見えてとても勉強になった。(NPO 塾)
- ・徐々にマネジメント講座の洗礼を受け自分たちというものを直視した思いです。重要な気づきの機会を作っていただいて感謝です(NPO 講座)
- ・NPO 会計の目的について改めて考え直すきっかけとなりました。もとても分かりやすく、これから大活躍しそうです。(NPO 講座)
- ・作業スペースがあることで訪問者の対応がスムーズにできた。(インキュベート団体)
- ・広報機能の充実してほしい。NPO 同士の勉強会交流会がほしい。(利用者会議)
- ・介護の問題に関してラジオを通して投げかけることができた。(NPO ヒトワク)
- ・ラジオでの言葉だけではなく、映像を映すことで活動をわかりやすく伝えることができた。(発見！地域のチカラ)

2 . 特集

那覇の協働フリーペーパー まちからコラボ

那覇の協働フリーペーパー「まちからコラボ」

市民×行政＝「街のソコチカラ」
那覇の協働の今を映し出す

那覇における協働の取り組みを共有したい。
協働を進める上での課題やポイントを知りたい。
市民と那覇市行政のより深い協働を進めたい人の、
そんな願いにこたえるメディア。
事例を検証し、課題解決の提案を行うフリーペーパー。



那覇市では「市民との協働」を第三次総合計画（1998年）より示している。10年が経過する中で取り組まれてきた様々な協働を検証するフリーペーパー「まちからコラボ」を4号発行した。市民協働推進課と指定管理者であるまちなか研究所わくわくの両方で編集会議を持ちながら、企画、取材、執筆を分担した。協働のスタート時の混乱や事業を進める運営資源の分担、専門性の構築、などの視点から4つの協働事例を取り上げる中で見えてきた工夫や課題を紹介する。

1) 創刊号(発行:平成20年7月)

【特集】なはカーフリーデー

NPO法人しまづくりネット×那覇市都市計画課
＝踏み出した本気の一步が那覇の公共交通を変える！

特徴

車社会からの脱却を目指し、行政と市民が3年間勉強会を開いて温めてきた思いを、協働イベントとして開花させた取り組み。NPO法人しまづくりネットと那覇市都市計画課の両者が人と資金を対等に持ち寄って開催。「クルマに頼らなくても快適な都市生活は送れる」というカーフリーデーの理念を啓蒙することからスタートした。

協働の工夫・ここがすごい！

専従スタッフの配置と50万円をお互いに負担するというガチンコ協働イベント。結果だけみると単発のイベントに見えるが、NPOと行政がまずは一緒に事業をやってみようということで「本当にパートナーになれるのか」を確認し合いながら進め、現在も継続してカーフリーデーが行われているという点がすごい！



特集：なはカーフリーデー
編集チーム推奨7月の「協働な」一品：ペロタクシー
NPOスタッフのための行政基礎：
Q.行政へはいつ、どこに事業提案したらよいでしょうか。
行政職員のためのNPO講座：
Q.NPOってボランティアなの？
協働パートナーバトンコラム～地域のため、思いはひとつ～
公園ボランティア【識名1丁目自治会×那覇市公園管理室】

2) 公共施設の地域運営～古波蔵児童館の運営・活動をみる～(第2号発行:平成20年10月)

【特集】地域に支えられる児童館運営

社会福祉法人ポプラ福祉会×那覇市子育て応援課

特徴

那覇市でも公共施設への指定管理者制度導入が進んでいるが、本事例は指定管理者制度が導入された児童館である。

協働の工夫・ここがすごい!

自治会や子ども会、民生委員、学校、母親クラブなどの地域組織とも積極的に連携しており、どんどん地域に飛び出して子どもの居場所づくりを行っている。また、来館者数だけでなく、子どもたちの変化を事業評価の視点に入れようとしている姿勢がスゴイ!



特集：公共施設の地域運営～古波蔵児童館の運営・活動をみる～
 編集チーム推奨 10月の「協働な」一品：おばけやしき
 NPOスタッフのための行政基礎：
 Q.市役所へ事業提案するときは誰にすればいいの？
 行政職員のためのNPO講座：
 Q.「NPO」と「NPO法人」って同じでしょ？
 協働パートナーバトンコラム～地域のため、思いはひとつ～
 支え合いマップ
 【那覇市第二民生委員児童委員協議会×那覇市福祉政策課】

3) 公共施設の地域運営～古波蔵児童館の運営・活動をみる～(第3号発行:平成20年12月)

【特集】子どものために、何かできないか

学校教育支援ボランティア「ゆうゆう会」×那覇市教育委員会学校教育課

特徴

校長経験者を中心に定年退職教員でつくる「ゆうゆう会」が、小学校で学習進度に遅れがある児童をボランティアで支援している活動を教育委員会がバックアップしている取り組み。

協働の工夫・ここがすごい!

ゆうゆう会と教育委員会が協定書を交わし、学校現場が活動を受け入れやすくしているところがスゴイ!



特集：専門性を活かした学習支援
 ～学校教育支援ボランティア「ゆうゆう会」の活動をみる～
 編集チーム推奨 12月の「協働な」一品：ゆうゆう体験学習
 ハイサイ!協働推進員です。:
 学びと交流から協働へ(那覇市教育委員会/宮内勇人)
 行政職員のためのNPO講座：
 Q.NPO職員はお給料もらってもいいの？
 協働パートナーバトンコラム～地域のため、思いはひとつ～
 未来を考えるなは市民会議
 【未来を考えるなは市民会議×那覇市経営企画室】

4) 市民による環境啓発拠点～アースの会の活動をみる～(第4号発行:平成21年3月)

【特集】生活の中でできることを実践・提案

アースの会×那覇市環境政策課

特徴

那覇市のごみ減量や資源化を推進する那覇市リサイクルプラザの運営を12年間継続して行っている取り組み。

協働の工夫・ここがすごい!

リサイクルプラザの市民向け啓発拠点のあり方を考える場に参加した一市民がその後 NPO「アースの会」を設立し、事業運営を担っている。組織運営は厳しい状況が続きながらも継続することで、5万人の小学生に環境教育の機会を提供し、できているところがスゴイ!



特集：公共施設の地域運営～古波蔵児童館の運営・活動をみる～

編集チーム推奨 10月の「協働な」一品：おばけやしき

NPOスタッフのための行政基礎：

Q.市役所へ事業提案するときは誰にすればいいの？

行政職員のための NPO 講座：

Q.「NPO」と「NPO 法人」って同じでしょ？

協働パートナーバトンコラム～地域のため、思いはひとつ～

支え合いマップ

【那覇市第二民生委員児童委員協議会×那覇市福祉政策課】

ふりかえり(編集会議での声)

- 那覇市行政内各課に届け、協働推進員が「読んだ」ということはスタートとして評価できる。
- 監査職員から「指定管理について勉強になった」という声があった。
- 行政側への取材にはコメントもらうことや写真の掲載など苦労は多かったが、なんとか4号ともコメントをもらうことができた。そのやりとりのプロセスも大事。
- 市民協働推進課とまちなか研究所わくわくのメンバー定期的に顔を合わせ、作業を共にすることで、他の取り組みも風通しがよくなり、コミュニケーションをはかりながら進めることができた。
- 行政内部への働きかけを市民協働推進課が行うことで、スムーズにいく場面が多かった。反面、身内に対する批判ととられ、課題をあぶりだすことに限界もあった。マスコミや学識など第三者を編集会議へ入れ、客観性を出しながら今の形で模索していく2年目になる。
- 読者の反応を得ることがほとんどできていない。協働推進員へ直接渡して感想を聞くなど反応を引き出す努力が必要。ネットで見れるようにはしていく。

3 . 事業成果と課題

3-1. 「参加と対話のプラットフォーム」 ～NPO・企業・行政・市民の創発空間～

(社会貢献活動促進のための施設及び設備の提供事業)

【趣旨・目標】

多様な分野・人・組織が集い、そこでお互いにエンパワーメントされ、創造的で発信力のある活動を展開していける、様々な人が行き交う外に開かれた中継拠点とします。

【今年度の事業部目標】

会議室・インキュベートブース(事務用ブース)・作業場・メールBOXにより多くの方々が入りできるようにするための空間整備(活動の拠点にあった施設レイアウトの変更等)と団体の利用ニーズに応じたメールBOXやインキュベートスペースなどのレンタルサービスの構築を行いながら、利用者同士での経験や体験・スキルなどを交換できるような機会を積極的につくっていきます。

【今年度実施した取り組み】

1) 施設利用者対応

施設レイアウトの変更

- ・ フリースペースの拡大
- ・ インキュベートブースとスタッフ事務スペースの一体化
- ・ 無線LANの設置

施設管理運営のためのスタッフの配置

2) インキュベートブース

入居団体

1. プラネット・チャオ
2. (特活)療育ファミリーサポートほほえみ
3. アイランドボイス
4. (特活)ホールアース研究所沖縄事務所

(入居団体の選定については、昨年度までの指定管理者が行った。)

中間報告会及び交流会

平成20年10月8日

平成20年度活動報告会

平成21年3月25日

3) 人材育成 (インターン)

那覇市NPO活動支援センターで働くスタッフをインターンと位置づけ、市民活動に関心があり、主体的に関わっていこうという人を募集して受け入れ、将来NPOで活躍する人材を育成する。

4) 相談業務

5) 利用者会議

那覇市NPO活動支援センターの利用者を対象に施設の運営や講座などについて広く意見を求め議論をする機会。また、センター利用者している活動者をつなぐ機会とする。

第1回利用者会議

2008年4月23日(水)19時～21時

第2回利用者会議

2008年12月14日(日)14時～16時

6) NPOグッズ販売(自主事業)

NPOが制作販売しているグッズの販売

【今年度の事業部総括】

那覇市NPO活動支援センターの利用実態

那覇市NPO活動支援センターの来館者数は、8617人で平均約24人/日にであった。利用目的は、会議室がもっとも大きく5004人、次いで施設利用(印刷、コピーなど)1100人、フリースペース753人となっている。今年度から団体の活動拠点となるように拡大したフリースペースが初年度から利用人数が大きく伸びており、打ち合せや資料作成の場として利用されている。センターが利用され

ている時期が10月、3月で約30人/日の利用があり、反対に4月、9月、12月は約19人/日と利用が下がり、季節や年中行事に大きく影響されることがうかがえる。なほセンサロンや利用者会議などセンター主催の催しでも積極的にフリースペースを活用することで、周知をはかれた。

インキュベートの利用実態

インキュベートの利用については、昨年度の指定管理者によって選定は終了していたので、要項は変えずに運営を行った。課題としては、インキュベートブース入居団体のセンター利用が低いことから、次年度募集については、要項を刷新し、名称も「共同空間 NPO オフィス」とし、立ち上げ支援のメニューではなく事業がある程度進んでいるステップアップを考えている団体を対象団体とした。次年度は、募集時期などのスケジュールの見直しも行っていく。

人材育成について

スタッフ募集の段階で、NPO インターンとして、提出書類に NPO についての作文を義務づけたことにより、スタッフの NPO に関わる意欲や事業への取り組む姿勢や学ぶ意気込みに大きく変化があった。

また、はじめに事業目標をつくり、卒業するときにはふりかえりの場を設けたことにより、気づきと学びがあり、今後に向けての NPO セクターにおけるキャリアアップの機会となった。今後はインターン期間中のフォローと事業ポートフォリオの作成などを行いたい。

この事業は「参加と対話のプラットフォーム」～NPO・企業・行政・市民の創発空間～という事業目標で取り組んできた。多様な主体の創発空間は「場」と「人」によって作られると考える。特に、「人」については那覇市 NPO 活動支援センタースタッフのみならず、センターに来る人々がこ

の空間を造り上げると考えている。そのためにも多くの人に利用されるセンターになるように、利用者の声を聞きながら改善を行っていきたい。

3-2. 「課題解決のためのパートナーシップ」～協働のサポート事業～

(協働型まちづくりのための研修機会の提供並びに調査及び研修)

【趣旨・目標】

地域課題を解決するという共通の目標を持つ組織と組織が二人三脚でその目標に取り組んでいくためのサポートを行います。

【今年度の事業部目標】

指定管理期間である3年間を通じて取り組めるテーマを設定した外部講師の招聘とNPO同士による活動力・組織力向上の機会づくり、地域課題を共有する機会づくりを行いながら、市民と行政がより協働しやすい環境整備を行う。

【今年度実施した取り組み】

1) NPO マネジメント講座の実施

第1回「市民参画型の公共施設運営～地域の大事な場所に育てるために～」

講師 西川正氏(ハンズオン!埼玉/常務理事)

第2回「支援を募る前に足元を固めよう」

講師 松本修一氏(マネジメント代表)

第3回「NPOの会計税務 信頼されるNPOの決算書」

講師 脇坂誠也氏(NPO会計税務専門家ネットワーク理事長代理・税理士)

2) NPO 塾の開催

毎回奇数月、19:00～21:00 開催(3月はAM/PMで1日で開催)

実施回数 10回、参加人数 97名

講師 基礎:下地美香、法人設立:宮道喜一

3) 持ちよりサロン

第1回 10月3日(金) 10:00～12:30

「NPO事務局のための NPOの働く環境総点検!」下地勝さん(サポートオフィスみらい・社労士)

第2回 1月30日(金) 10:00～12:30

「元気にNPO活動するための予算の考え方」古我知浩さん(沖繩リサイクル運動市民の会) 共催 NPO法人おきなわCAPセンター

4) なはセンサロン

第1回 那覇の交通の未来を描く市民活動を見る 6月26日

第2回 災害時の観光客対応 8月22日(金)

5) 市民活動に関する相談、情報提供

6) なはのまちを考える講座

7) うないフェスティバル実行員会

8) おきなわ市民活動支援会議

9) NPO事務局サポート

工賃倍増計画地域ネットワーク会議(ふれんど)

映画上映会(ふれんど)

遺骨収集&生活支援(ガマフヤー)

【今年度の事業部総括】

市民活動の啓発普及

NPO塾は、2ヶ月に1回定期的に行うことで、97名の参加があり、市民活動・NPOへ関心を持つ層への働きかけを行うことができた。受講者をセンター利用者につなげていく仕掛けが不十分なので、その道筋を作っていく必要がある。

出前講座の依頼はなかった。NPO基礎やNPO設立のセンターメニューづくりとHP等を通じた情報発信をしていくかどうかの検討が必要である。

スタッフが講師を務めることで、スタッフの講師としての力量形成の場となっている。日常の相談対応にも生かすことができている。

協働パートナーの組織力アップ事業

NPO同士のヨコのネットワークを広げ、NPOが持っている経験やノウハウを交換することで

レベルアップすることを目指して「持ちよりサロン」を行った。事務局同士の情報交換はできたが、ネットワークをつくるまでの参加を得ることは難しかった。

NPOの事務局サポートを行う機会が3件あった。個別支援となってくるため、組織の課題も深く見えてくるなど成果があった。次年度は積極的かつ戦略的に事務局サポートに入っていきたい。

協働講座

NPO マネジメント講座として、県外講師を招聘し、3本開催した。指定管理期間である3年間を通じて取り組むテーマを設定し、開催することができた。また、3回を通して、NPOの課題や地域の課題が先にあり、参加してほしい団体が見えている中で企画することができた。

参加団体のその後の改善にどこまで貢献できているかが測れていない。

事業計画にある取り組みを行うことができ、かつ地域課題を明らかにしていこう、という趣旨のなはセンサロンの開催やNPO事務局サポートなどの新たな取り組みも行うことができた。外部のNPOや組織と協働で企画・運営する機会を積極的に持つことができ、参加者の層が幅広くなるなどの効果が出始めている。

次年度も外部の組織を積極的に巻き込みながら、個別のNPO事務局サポートにも入っていくことで、地域の課題共有とNPOの活動力・組織力向上に取り組んでいく。

3-3. 「NPO 情報市場」 ～ 集めて、伝えて、参加する ～

(市民活動に関する情報の収集及び提供)

【趣旨・目標】

市民が地域課題解決に参加するために、NPO など様々な情報を集積し、発信する場とする。

【今年度の事業部目標】

広報誌とホームページを柱に、既実践されている那覇市と NPO の協働の取り組みや那覇で活動する NPO に関する情報を市民が参加できる機会をつくりながら、収集と発信を行っていく。

【今年度実施した取り組み】

1) 那覇の協働フリーペーパー「まちからコラボ」の発行 (4 回/年)

広報誌の取材、作成作業を通じて、NPO と行政の協働に関して情報収集と発信を行い、市民、NPO、行政職員に「那覇の協働事例」「協働とは」や市民活動の現状について広報をおこなうことを目的とする。

内 容 (発行部数 : 1000 部)

7 月 「なはカーフリーデーの取り組み」

NPO NPO 法人しまづくりネット
行政 都市計画課

10 月 「公共施設の地域運営」

NPO 社会福祉法人ポプラ福祉会
行政 子育て応援課

12 月 「専門性を活かした学習支援」

NPO 学校教育支援ボランティアゆうゆう会
行政 那覇市教育委員会学校教育課

3 月 「市民による環境啓発拠点」

NPO アースの会
行政 環境政策課

2) なはセンファイルの運用とデータベースの作成

当センター内に、県内 NPO の団体概要を掲載したファイルを設置し、常時、NPO の情報を収集し市民、行政、企業などに見覧できるようにし団

体情報発信の支援を行う。

3) 資料・図書の貸し出し・閲覧

・ NPO に関する資料や図書を計画的に購入し、貸し出し及び閲覧に供する。

・ ブログで貸出図書・資料などを登録する「ブックログ」の活用

4) ホームページ、ブログの運営

当センターの活動状況について情報発信を行う。

5) 市民活動団体 PV 作成事業 (沖縄ケーブルネットワーク株式会社 (OCN) との協働事業)

沖縄ケーブルネットワークとの協働事業。スタジオを飛び出して団体の活動現場へ年間約 12 回取材し、PV「発見! 地域のチカラ」を作成。

6) NPO ヒトワク紹介事業 (FM なはとの協働事業)

7) 公益ポータルサイト勉強会

【今年度の事業部総括】

那覇市との協働事例【検証の強化と今後の活用方法】

・ 4 つの協働事例を通して、協働の課題の一部が見えてきた。しかし、編集会議に外部の人を入れることができなかつたため、「検証」の部分が弱かつた。学識者など入れ、視点の切り口を幅広くし、評価・検証の妥当性をあげたい。

また検証した結果・成果、蓄積していく事例データベースをどのように活用していくか決めることが求められ、協働環境の改善につなげていくことが重要である。

参加の機会、情報収集・発信

【アナログとデジタルが連動した情報収集・発信の必要性】

・ なはせんファイルは、市民が団体について尋ねてきた際、情報を伝えるツールとして活用できた

が、未登録の団体については提供できる情報が乏しい状況である。積極的に団体に登録を促し、情報収集していく必要がある。

・図書の貸し出しについては、冊数が前年度よりも下がっており、貸出業務を行っているという広報不足だった。ブログで貸出図書・資料などを登録する「ブックログ」を活用したため、来所せずにセンターにある図書資料がわかるようになったが、紹介コメントがまだ少ない。積極的に紹介していく必要がある。

・ブログは、NPO からの人材募集情報やスタッフが関わったイベントの報告、また f m なは、OCN との協働番組の報告・団体紹介など市民が参加できる情報を伝えるツールとして機能した。HP はサーバーが那覇市にあることで、情報を載せるスピード性に欠ける部分がある。

・ f m なはと OCN との協働事業は、センタースタッフが団体をコーディネートし番組を作っていくプログラムの中で、団体の活動内容や状況について知ることができ団体と関係をきずくことができた。また、新たな団体とつながるきっかけになり情報収集としての効果は大きかった。f m なはの番組は、インターネット上で再度聴くことができるが、OCN の番組は DVD としてデータはあるが、いつでも見られる環境ではない。

一度放送を終えたラジオや映像のデータをさらに多くの市民に見て効率よく情報を得てもらうためには、インターネット上でいつでも見ることができる環境をつくる必要がある。

・なはセンファイルや図書・資料の貸出、f m なは、OCN との協働番組、いずれの情報収集発信ツールの共通課題として、インターネットでの収集発信の環境整備の必要性が挙げられる。

いち早く新鮮な市民活動情報や団体情報を効率的に得られるよう、そして NPO が広く情報発信ができ、社会の共感を得ていくためにはウェブ上での情報発信が求められる。そのため、今年度は地域

ポータルサイト勉強会を、企業、行政、社協、NPO で行った。次年度の実現を目指し運営資金が課題である。

3-4. 「NPO ゆいまーるファンド」 ～資金の再配分によって社会を変える～

(那覇市 NPO 活動支援基金助成事業)

【趣旨・目標】

市民のお金である基金が地域課題解決を行う NPO の活力と課題解決効果を最大限に発揮できるための資金投資を行っていきます。

【今年度の事業部目標】

基金助成 10 周年に向けて、これまで助成を受けた団体への追跡ヒアリング調査等での成果検証を行いながら、同時に団体の取り組む課題についても掘りさげ、那覇のまちの地域課題を整理する。また、ハード助成については、NPO へのフォローを中心に自治会等地域組織との連携を視野に入れながら、事業推進サポートを行います。

【今年度実施した取り組み】

1) 公益信託那覇市 NPO 活動支援基金助成事業

・いっちょやったるぞ! 20 万コース:

3 団体 (申請数 7 団体)

・ぱっちりやったるぜ! 50 万コース:

4 団体 (申請数 9 団体)

・明日をつくるビジョンをえがけ!

100 万コース: 1 団体

公開審査会の実施

日時: 平成 20 年 7 月 13 日 (日) 10:30 ~ 16:30

場所: てんぶすホール那覇ぶんかテンプス館 4 階

来場者数: 80 名 (発表団体含む)

基金その他関連行事

2007 年度助成事業報告会の開催

報告団体: 8 団体

基金説明会の開催

市内 3ヶ所で実施(那覇市社会福祉協議会、沖縄大学、那覇市 NPO 活動支援センター)

那覇市 NPO 活動支援基金 直前講座

「想いかたちに! 助成事業企画講塾」

パネル展の実施: 基金の活動実績を広く市にアピール (那覇市本庁)

住民提案協働型まちづくり助成コース

助成金額: 50 万円 ~ 300 万円: (年間総額 500 万円)

申請団体なし

2) 過去の成果検証と申請団体の取り組む地域課題の整理

・これまで基金の助成を受けた団体へ次の 10 年の「公益信託那覇市 NPO 活動支援基金」制度改善に向けたアンケート調査

3) 多様な主体との協働による政策研究事業

「新しい公共における活動団体の資金支援策 ~ 公益信託那覇市 NPO 活動支援基金の今後のあり方を検討する ~」

・各企業助成プログラム担当者ヒアリング 12 団体

・助成 NPO ヒアリング 5 団体

・助成金プログラム担当者連絡会

(第 1 回 2 月 13 日 (金))

「助成プログラムと課題の共有」

第 2 回 3 月 26 日 (木))

「1 歩進んだ社会貢献活動に向けて」

講師: 古瀬繁範氏 (NPO 法人地球と未来の環境基金)

・市長座談会 3/28 (土)

NPO: 9 団体

那覇市 NPO 活動支援基金運営委員

那覇市長

【今年度の事業部総括】

公益信託那覇市 NPO 活動支援基金のこれから

【助成団体の成果検証と民間助成プログラム担当者連絡会の必要性】

・これまで基金の助成を受けた団体へ次の 10 年の「公益信託那覇市 NPO 活動支援基金」制度改善に向けたアンケート調査は、調査対象は 92 団体であったが回収ができたのが 35 団体だった。回収率が低く成果検証を行うのは困難であり、また地域課

題を整理するまでに至らなかった。

- ・市長と NPO の座談会を開催することで、那覇市の NPO や那覇市 NPO 活動支援基金の現状について翁長那覇市長に伝えることができた。

- ・県外講師を迎えることで、全国の動向として、資金提供したその先にある社会へのインパクト・成果の検証が大きな課題であることを共有できた。また、助成金プログラムの制度設計について沖縄県内の助成金担当者 6 名が学ぶことができた。沖縄県内の NPO への資金提供の現状を把握するためにも、引き続き助成金担当者の意見交換の場は必要である。

公益信託那覇市 NPO 活動支援基金の運営

【広報活動と助成団体へのフォローの強化】

- ・年 2 回の助成金の募集は事務局負担が大きくハード助成は 1 回目に比べて広報に力をいれることができなかった。そのため、ハード助成の応募申請はなく、助成金を拠出することができなかった。ソフト助成に関しても、応募総数は 18 団体あったが、昨年度より団体数は減っている。ハード助成ソフト助成どちらとも募集広報を強化する必要がある。

- ・次年度はソフト助成の公開審査会の時にハード助成の公開プレゼンテーションを実施し、ソフト助成団体にもハード助成の存在について知ってもらえる機会になるようにする。

- ・助成決定後、助成団体のイベント等には参加したが、活動状況や現状サポートなど団体へのフォローができなかった。助成後は団体の助成事業の効果につながるようサポートを強化していく必要がある。

3 - 5. 「企業活力」 ～市民社会を変えるもう一つの力～

(企業の社会貢献活動促進のための事業)

【趣旨・目標】

企業という民間の力を地域課題解決に最大限に発揮できるよう、企業とNPOの対話の機会をつくっていきます。

【今年度の事業部目標】

県内の市民活動支援機関・中間支援機関と連携する中で、社会貢献活動に取り組む企業に関する情報を収集します。

【今年度実施した取り組み】

1) 地域公益ポータルサイト実現する会

沖縄における地域公益ポータルサイトの実現に向けて企業(シーポイント、FMなは)、行政(沖縄県、那覇市)、NPO(アンビシャス)、中間支援(沖縄県ボランティア市民活動センター、那覇市NPO活動支援センター)による勉強会

2) 多様な主体との協働による政策研究事業

沖縄県において、市民活動やNPO向けの助成プログラムをもった各企業の助成プログラム担当者ヒアリング12団体

【今年度の事業部総括】

今年度は、沖縄における市民活動・NPOに向けての支援やCSR活動を行っている企業の情報収集を他の事業を通じて行った。次年度はこれらの企業情報とネットワークを活かして、広報誌「まちからコラボ」でCSRコーナーをつくり企業の取り組みについて発信する。

4 . 収支概要

第4章 収支概要

平成20年度 那覇市NPO活動支援センター収支決算書						
(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)						
単位:円						
		金額	割合 (%)	内 訳	平成19年度 決 算	
	【経常収入】					
委託料金	指定管理料		14,828,000		14,230,000	
利用料金	会議室利用料金	74,300		クーラー使用料・クーラー代1000円/月6か月	56,875	
	インキュベート利用料	192,000		1団体4000円/月・	160,000	
	機材貸出料金	64,300			54,200	
	コピー機利用料金	768,422	1,099,022	コピー機(モノクロ・カラー)、印刷機	593,208	
その他	なはセン講座	192,000		3000円×(22+17+25)人	101,700	
	NPO塾など	110,395		500円×(97+11+30)人その他		
	書籍販売等	125,430		便利帳・共同売店売上	119,204	
	印刷紙代	237,007		用紙代	195,363	
	ラミネート、折り機など	29,020			8,950	
	その他	7,480	701,332		646	
				フリーパス	265,800	
	経常収入 計		16,628,354		15,785,946	
	【経常支出】					
人件費	給料 手当(事業)	8,542,478			8,125,860	
	法定福利費	809,513				
	福利厚生費	52,820	9,404,811	57	77,149	
事業費	リース料	756,000		印刷機リース代・コピー機リース代PCリース代・メンテナンス	623,062	
	新聞図書費	89,300		県内新聞2社他、定期購読誌	106,942	
	通信運搬費	255,783		電話・郵送代・インターネット接続料	320,429	
	什器備品費	838,998		消耗品	840,578	
	諸謝料	441,725		講師料	513,125	
	仕入高	151,652		図書・まきし共同売店物品		
	印刷製本費	202,950		まちなかコラボ印刷代	562,000	
	会場費	22,840			20,000	
	旅費・交通費	197,824		講師旅費・スタッフ交通費	157,210	
	保険料	74,184				
	会議費	7,281				
	研修費	36,000			25,000	
	雑費	12,677	3,087,214	19	108,309	
施設管理費	施設共同管理費	1,695,840		てんぶす管理費及び修繕費積立金、駐輪場、フリーパス券	1,865,040	
	水道光熱費	311,027			277,862	
	修繕費	46,200	2,053,067	12	ブラインド修理	28,350
	設備費				85,050	
租税公課					409,993	
一般管理費			2,083,262	13	1,639,987	
	支出合計		16,628,354		15,785,946	

5 . 運営について

5 - 1 . 事業推進体制

当施設運営するためのスタッフを配置する

那覇市 NPO 活動支援センター事業部 (担当理事：小阪 巨 宮道 喜一)

- 常勤：小阪 巨、宮道 喜一、下地 美香
- インターンスタッフ：稲垣 暁、屋宜 哲治 (4月～3月)
岸本 佳子、山本 和治 (4月～9月)
金城 悠、稲住 光祐 (10月～3月)

総務・経理部 (担当理事：小阪 巨)

5 - 2 . スタッフミーティング

那覇市 NPO 活動支援センターで勤務するスタッフ全員が集まって月に一度の情報の共有と事業の確認及び利用者対応などでの困ったことや対応について場とする。

- 第1回 4月15日(火)
- 第2回 5月14日(水)
- 第3回 6月11日(水)
- 第4回 7月10日(水)
- 第5回 8月7日(木)
- 第6回 9月10日(水)
- 第7回 10月14日(火)
- 第8回 11月6日(木)
- 第9回 12月9日(火)
- 第10回 1月13日(火)
- 第11回 2月10日(火)
- 第12回 3月17日(火)

6 . 資料

平成20年度 那覇市NPO活動支援センター事業	
	実施事業
「NPOゆいまーる ファンド」 ～資金の再配分によ って社会を変える～	公益信託那覇市NPO活動支援基金 ・100万円コース・50万円コース・20万円コース
	・住民提案協働型まちづくり助成コース
	・基金運営委員会
	・10周年ふり返り 政策研究会 (NPOへの助成プログラム担当者連絡会、助成NPOヒアリング・他)
「課題解決のための パートナーシップ」 ～協働のサポート事業～	NPOマネジメント講座(西川さん)
	NPOマネジメント講座(松本さん)
	NPOマネジメント講座(脇坂さん)
	実務担当者交流会&アドバイザー派遣事業 持ちよりサロン
	なはセンサロン
	NPO塾(毎月第二・三金曜日)
	市民活動に関する相談、情報提供
	なはのまちを考える講座
	うないフェスティバル実行委員会
	おきなわ市民活動支援会議
	工賃倍増計画地域ネットワーク会議(ふれんど)
映画上映会(ふれんど)	
「参加と対話の プラットフォーム」 ～NPO・企業・行政・市民の創 発空間～	施設利用者対応 (会議室・印刷機・フリースペース・エコペーパー等)
	インキュベートブース
	人材育成(インターン)
	利用者会議
	NPOグッズ販売(共同売店)
「NPO情報市場」 ～集めて、伝えて、 参加する～	機関誌(まちからコラボ)
	なはセンファイル
	資料図書閲覧
	OCN協働PV「発見!地域のチカラ」作成事業
	F Mなは「NPOヒトワク」団体紹介
「企業活力」 ～市民社会を支える もう一つの力～	地域公益ポータル

事業区分	参加と対話のプラットフォーム	
事業名	施設利用者対応（会議室・印刷機・フリースペース・エコペーパー等）	
計画	営利を目的とせず市民活動を行っている団体や個人に、施設提供や機材貸出を行っています。さらに、団体の自立支援としての事務スペースの貸出も行います。	
	目的	市民活動団体が必要としている印刷機などのオフィス機器を便利に低価格で提供する。多くの方に当センターを知っていただくための広報活動、より気軽に施設を利用できるような空間づくり、さらに情報や人の集まる価値のある場づくりに取り組む。
	概要	日 時 年中無休（年末年始を除く） 時 間 朝9時から夜10時 利用者数 8617人、日平均 約24人（平成20年度） 場 所 那覇市NPO活動支援センター スタッフ数 8名
	事業対象	社会貢献活動や市民活動を行う非営利の団体や個人
	プログラム（H20年度）	インキュベートブース貸出 4団体 会議室貸出 5004人 フリースペース提供 753件 メールボックス提供 54件 施 設 ・印刷機 584件 ・コピー機 327件 ・紙折り機 32件 ・印刷用紙、エコペーパー販売 機材貸出 ・プロジェクター 70件 ・スクリーン 22件 ・マイク付きアンプ 8件 ・テレビデオ、DVDデッキ 13件 ・ワークショップグッズ NPO関連図書貸出 39件 NPO関連書籍、グッズ販売 141件
	利用者の声	施設の良い点 ・土日、祝日問わず、夜の10時まで開いているのが、すごく助かる。 ・スタッフは声がかげやすく、気軽に話することができる。 ・施設利用料金が安く、会議室は無料で使いやすい。 ・夏はクーラーがあり、施設は明るく清潔感もある。（キレイ） ・情報（助成金、講座、他団体）がある。 ・交通の便（バス）がいい。駐車場が安くて交通が便利である。 ・予約なしでも使えるフリースペースはすごく嬉しい。 ・無線LANも嬉しい。ポット、コップまで借りられる。 ・事務作業するには最適。NPOの情報もたくさんある。周りに公園など緑が多くて良い。 ・会員が高齢の方が多いのでトイレが完備されているところや、エレベーターもあり利用しやすい。 施設の改善要望の声

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車料金がもう少し安くなれば非常に助かる。センター施設利用者は駐車無料とかは厳しいか。 ・ 市民が常時使えるパソコンがあればいいなと思う。 ・ 計画的に予定を立てられるよう、会議室の予約が2, 3か月前からできたらいい。 ・ 3Fだから知らない人は立ち寄りが難しいかも。通行人がよれる感じを工夫する。
評価	できたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ センターの運営時間、環境、設備、雰囲気、料金の安さ、備品等の貸出はいい評価を頂けた。 ・ 非営利ではない印刷機の利用があったので、適切な対処する必要がある。 ・ 駐車料金が安くていいという声が多かった反面、機材の貸し出し等の短時間でも駐車料金がかかるのを不満に思う声もあった。
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ より利用者に満足していただけるよう、利用者の声をヒアリングし、サービスやアメニティの向上に努める。 ・ 壁面緑化計画。 ・ 環境と経費節約のためにエコライフを実施し、緑のカーテンを設置。夏場のエアコン温度を28度前後に設定する。

事業区分	参加と対話のプラットフォーム～NPO・企業・行政・市民の創発空間～																																						
事業名	インキュベートブース入居団体の選定及びブースの運営																																						
計画	那覇市に関わる市民活動団体が、中期的に活動拠点を確保できるようにするため自立支援として、事務スペースを一定期間利用できるインキュベートブースに入居する団体を選定する。また、ブース運営、団体の自立を促す。																																						
実行	取組むべき課題	立上げすぐの団体、またこれから立上げを考えている個人にとって、一般的に事務所を借りて拠点をつくるのは困難である。																																					
	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・団体が中期的な活動拠点を確保して自立していける状態をつくる。 ・入居団体同士が交流を持ち顔の見える関係となるような環境をつくる。 																																					
	概要	<p>平成20年入居団体に関して</p> <p>入居募集期間 平成20年2月12日～2月23日</p> <p>選定会 平成20年3月1日(土) (那覇市NPO活動支援センター会議室)</p> <p>募集数 4団体</p> <p>申請団体名 プラネット・チャオ (特活)療育ファミリーサポートほほえみ アイランドボイス (特活)ホールアース研究所沖縄事務所</p> <p>平成20年度入居団体選定会評価集計表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>委員名</th> <th>プラネット・チャオ</th> <th>(特活)ホールアース研究所沖縄事務所</th> <th>(仮称)島旅人</th> <th>(特活)療育ファミリーサポートほほえみ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>島田</td> <td>25</td> <td>38</td> <td>27</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>照喜名</td> <td>22</td> <td>28</td> <td>19</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>照屋</td> <td>19</td> <td>29</td> <td>9</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>大城</td> <td>18</td> <td>36</td> <td>24</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>古我知</td> <td>19</td> <td>36</td> <td>21</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>103</td> <td>167</td> <td>100</td> <td>149</td> </tr> </tbody> </table> <p>入居前 オリエンテーション開催 平成20年3月25日 中間報告会及び交流会 平成20年10月8日 平成20年度活動報告会 平成21年3月25日</p>			委員名	プラネット・チャオ	(特活)ホールアース研究所沖縄事務所	(仮称)島旅人	(特活)療育ファミリーサポートほほえみ	島田	25	38	27	33	照喜名	22	28	19	30	照屋	19	29	9	29	大城	18	36	24	30	古我知	19	36	21	27	合計	103	167	100	149
	委員名	プラネット・チャオ	(特活)ホールアース研究所沖縄事務所	(仮称)島旅人	(特活)療育ファミリーサポートほほえみ																																		
	島田	25	38	27	33																																		
	照喜名	22	28	19	30																																		
照屋	19	29	9	29																																			
大城	18	36	24	30																																			
古我知	19	36	21	27																																			
合計	103	167	100	149																																			
入居団体	<ol style="list-style-type: none"> 1. プラネット・チャオ 2. (特活)療育ファミリーサポートほほえみ 3. アイランドボイス 4. (特活)ホールアース研究所沖縄事務所 																																						
担当者	下地美香																																						
事業対象	県内NPO、市民活動団体																																						
入居期間	2008年4月1日～2009年3月31日																																						

	入居 団体の声	<ul style="list-style-type: none"> ・作業スペースがあることで訪問者の対応がスムーズにできた。 ・情報がすぐに調べられ収集できる点が良い。 ・昨年度よりブース周りが明るくなって気持ちがいい。 ・外側のブースは明るいですが廊下側は少し暗い。場所はローテーションで交換してもよいのではないかと。 ・他団体の活用頻度が少なく日頃交流することができなかった。
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<p>センター事務所とインキュベートブースが隣接しているため、団体の活動様子がみえ、コミュニケーションがとりやすく関係を築くことができた。</p> <p>ブースの活用頻度が少ない団体へのアプローチができず、年間通してブースを活用してもらえなかった。</p>
次への展開	次年度方針	<p>「自立」は団体の規模や活動等で異なり、当センターが団体の自立を判断は困難であり、またフリースペースの無線LANの設置、メールBOXやと合わせて活用することで、団体立ち上げ期の拠点支援は満たせるという判断から、団体立ち上げ支援という位置づけから、継続的・日常的な活動に展開するステージアップ支援に位置づける。</p>

事業区分	「参加と対話のプラットフォーム」 ～NPO・企業・行政・市民の創発空間～	
事業名	人材育成（インターン）	
計画	市民活動に関心があり、主体的に関わっていこうという人をインターンとして受け入れ、将来NPOで活躍する人材を育成する。	
実行	取組むべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ● NPOで活動したい、NPOを立ち上げたいという人はいるが、そのために学ぶ機会が少なく、市民セクターを担っていく人材育成の機会がない。
	目標	<ul style="list-style-type: none"> ● インターンとして関わる人材が、当センターの活動に携わる中で、NPOとのネットワークを広げたり、NPO運営について学ぶこと。
	概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 半年間もしくは1年間という期間でセンターの運営スタッフとしてインターン受け入れを行った。 ● 日常業務として、会議室やNPO活動拠点スペースの提供、コピー機などの貸し出しを行った。 ● インターンプログラムとして、FM 又は「NPO ヒトワク」出演団体コーディネートやOCN番組の「発見！地域のチカラ」のコーディネート、ディレクト、レポートまでを行った。 ● インターンが始まる際に、半年間（1年間）の目標を設定し、インターン卒業時に目標に向けてできたこと、できなかったことなどふりかえりを行った。 <p>インターン 稲垣暁、屋宜哲治（4月～3月） 岸本佳子、山本和治（4月～9月） 金城悠、稲住光祐（10月～3月）</p>
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 募集の段階で作文を提出してもらうなど、入口でのハードルを設けたことによって、NPOについて学ぶ意欲の高い人材からの応募が集まった。 ● FM 又は、OCNの番組コーディネートを通じて、NPOと出会う機会を定期的につつことができた。これらのプログラムによって、インターンの学びを深め、その後のネットワークを広げるきっかけとなっている。 ● 有給スタッフとして活動する領域と無償の自発的活動領域の境目があいまいではないか、というインターンの声があがっている。
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> ● インターンを卒業したメンバーがセンターに関わる機会をボランティアプログラムとして積極的につくっていく。 ● 常勤スタッフに担当インターンをつけることなどによって、インターンに任せる仕事の領域を広げていく。

事業区分	「参加と対話のプラットフォーム」 ～NPO・企業・行政・市民の創発空間～	
事業名	利用者会議 ～なはセンと利用者同士をつなぐ～	
計画	利用者やなは・沖縄で活動する方々と一緒に市民活動の拠点をつくっていくための機会として、利用者の声を聞きサービス改善や新たなサービス開発、利用者同士のネットワーク（相談し合える関係づくり）づくりを目指し、「なはセン利用者交流会」を随時必要な機会に開催する。	
実行	目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 指定管理者が変わり、会議室・インキュベーションスペース・事務スペースが入れ替わるなどスペースの使い方も変わったことを利用者・団体に知らせる。 ● なはセンの提供するサービスや新しいスペースについて、より利用しやすい形にするための意見交換。 ● 利用団体・利用者がお互いのことを知りあう機会。現利用団体だけでなく、過去の利用団体との交流も持てる機会とする。
	対象	<ul style="list-style-type: none"> ● なはセン利用者・団体(なはセンファイル登録団体、現利用者・団体、インキュベーションブス入居団体、過去の利用者・団体) ● なは・沖縄で市民活動しているNPO
	概要	<p>第1回 なはセンと利用者同士をつなぐ「なはセン利用者ミーティング」 日 時：2008年4月23日(水)19時～21時 場 所：那覇市NPO活動支援センター・フリースペース プログラム： ・なはセンの変わったことと変わらないこと ・スペース・サービスについての「意見」と「質問」 ・なはセンの「ここがいい!」「ここを変えて!」 参加者：13人</p> <p>第2回 「なはセン会議」(利用者ミーティング) なはで市民活動している皆さまへ 一緒に市民活動の拠点を作りましょう! 日 時：2008年12月14日(日)14時～16時30分 場 所：那覇市NPO活動支援センター・フリースペース プログラム： ・なはセンカイゼン ・なはセン10周年イベントやります!(平成21年度事業) ・なは市民活動交流会&望年会 参加者：</p>
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ● なはセンのサービスについて改善案、意見を得ることができた。また、年度末に利用者アンケートを合わせて行うことで利用者の声を拾うことができた。 ● 利用者同士の顔合わせ、交流をはかることができた。 ● 利用者会議だけを目的として集まってもらうには目的がしぼりきれしていない。
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> ● なはセンの各種サービス・事業毎に利用者が集まる機会に合わせて利用者会議を開催し、声を拾っていく。まず5月には、那覇市NPO活動支援基金の活動報告会などと合わせて利用者会議を開催する。

事業区分	参加と対話のプラットフォーム～NPO・行政・企業・市民の創発空間～			
事業名	NPO グッズ販売（共同売店）			
計画	なはセンにおける「まきし共同売店」のリニューアル			
実行	取組むべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ・店舗の再構築（レイアウト変更など） ・出店団体募集のための広報（チラシ作製など） ・売店としての販売システムの制定 		
	目標	新しい店舗で新規に2団体の出店を目指す。		
	概要	取扱商品数	12品	
		今年度新規商品数	1品	
			アイテム	団体名
		1	盲導犬グッズ(Tシャツ)	(特活)沖縄盲導犬普及協会
		2	沖縄指笛	(特活)アンビシャス
		3	NPO と協働環境に関する調査報告書(書籍)	IIHOE(人と組織と地域のための国際研究所)
		4	12のチカラ(書籍)	
		5	み～きゆるきゆる(書籍)	(特活)まちなか研究所わくわく
6		一新力(書籍)	(特活)一新塾	
7		道州制で日はまた昇るか(書籍)		
8		みんなでホイッ!1(書籍)	玉川まちづくりハウス	
9		みんなでホイッ!2(書籍)		
10	自治基本条例(書籍)	沖縄自治研究会		
11	ステッカー「守ろう命」	川上佳子(辺野古テント村有志)		
12	手作りTシャツ	(特活)エイブルサポート・つばさ		
<p>販売方法</p> <p>【委託販売】（原則）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 団体より商品を予め商品を納品 2. センターで販売 3. 商品販売後、委託手数料(販売価格の2割)を差し引いた売り上げを団体へ支払う <p>【買取販売】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 団体より商品を定価の2割引で買取る(2割は手数料分) 				

		2.センターで販売
	事業担当者	屋宜哲治
	事業対象	NPO、市民活動団体
	委託手数料	定価販売価格の20%
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・商品開発をしている団体に販売をよびかけ、1団体新規で販売が決まった。 ・店舗のリニューアルは何とか年度内でできたが、広報に関してチラシは出来上がったものの、団体への声掛けが十分にできなかった。
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄リサイクル運動市民の会の眞喜志さんに協力していただき、共同売店の活性化プロジェクトを立ち上げる。 ・新規団体を5団体増やす。

事業区分	「課題解決のためのパートナーシップ」～協働のサポート事業～	
事業名	なはセン講座 「市民参画型の公共施設運営 ～地域の大事な場所に育てるために～」	
計画	NPO と行政の協働の一つの形として広がりつつある指定管理者制度によって、公共施設を民間が運営していく場面が増えている。NPO・社会福祉法人等、行政担当部署の地域の公共施設運営に関わる人を対象として、地域みんなの大事な場所にしていくために、公共施設の市民運営についての基本的考え方、方向性を共有する機会を提供する。	
実行	取組むべき課題	那覇でも児童館、保育園、公民館、老人福祉センターなど公共施設の民間運営が進んでおり、これからもさらに進むと考えられる。 (指定管理者制度導入に関する指針(2005年5月策定)、第2次経営改革アクションプラン、第2次那覇市定員適正化計画2200プラン(2007年10月策定)) しかし、行財政が逼迫している中での経費削減、効率化、という視点だけでは受け手の民間組織の疲弊、職場環境の悪化、ひいては公共サービスの低下にまでつながりかねない。
	目標	1)市民参画型の公共施設運営という理念や考え方を落とし込む ・地域の公共施設から地域の元気を発信したり、そこから新たな公共が生まれ、その地域に本当に必要な場所、大事な場所にしていくことが重要 2)「地域に大事にされる公共施設」の事例の共有 どんな使われ方をして、そこで何が生まれているのか、何が起きているのか、施設運営に市民が参画することで何が変わるのか 3)運営団体の選定・契約・運営・評価について(指定管理者制度)の考え方のヒントを得る
	概要	日 時 2008年11月9日(日)10:00～16:30 主 催 那覇市 NPO 活動支援センター(企画・運営:NPO 法人まちなか研究所わくわく) 参加人数 22名(申込24名)定員40名 社会福祉協議会、NPO、保育園、児童館、等 参加費 3000円 場 所 繁多川公民館(40名収容・駐車場なし)
	講師	講師:西川正氏(ハンズオン!埼玉/常務理事)
	参加対象	地域の公共施設運営に関わる組織の代表者・スタッフ(児童館、公民館、老人福祉センター、図書館、学童保育、福祉作業所、公園、プレーパーク、子育て支援施設、等の地域の公共の管理運営を担う関係者)
	プログラム	10:00～12:00 セッション1 講演「市民参画型の公共施設運営とは」 講師:西川正氏(ハンズオン!埼玉/常務理事) 13:00～16:30 セッション2 「こんな現場がある!市民による公共が生まれるその瞬間!」 コーディネーター:西川正氏(ハンズオン!埼玉/常務理事)
	評価	目標に対してできたこと、できなかったこと

		<ul style="list-style-type: none"> ● 指定管理者制度に踏み込むことができなかった。 ● 施設運営には様々な要因が絡み合っている。分解し、具体的なテーマで深めていくことが次の段階としてやるべきこととして見えてきた。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 組織マネジメント(組織内部の意思決定や合意形成、会議の仕方など)やボランティアマネジメント、指定管理者制度との付き合い方など ● 組織ではなく多様な市民が関わる場を運営していくノウハウ・スキルの講座もニーズがあることが見えた。 ● 社協や公民館、児童館などのターゲットごとにしかけることも有効。 ● 行政に聞いてほしいが、どのように届かせるかは次の取組として必要。
次への展開	次年度方針	

事業区分	課題解決のためのパートナーシップ～協働のサポート事業～	
事業名	なはセンのNPOマネジメント講座「支援を募る前に足元を固めよう」 NPOマネジメント相談会	
計画	団体のミッション、目標、これまでの活動、社会に対しての効果等を再度考え、団体の土台をつくりのきっかけとなる講座を開催する。	
実行	取組むべき課題	多くのNPOが「運営資金ない、スタッフがいない、食品提供してほしい」といった人・モノ・お金不足という問題を抱えている。市民・企業に支援を募ってもなかなか集まらない状況である。
	目標	・講座企画きっかけとなった生活困窮者支援のNPOに参加してもらう ・団体のミッション、ビジョン等具体的であるか考える。 ・講座終了後、参加団体がメンバー間でビジョンと戦略をたてられる状態になっている。
	概要	【なはセンのNPOマネジメント講座「支援を募る前に足元を固めよう」】 日 時 平成21年2月22日(日)10:00～17:00 参加人数 17名(10団体) 参加費 ¥3,000/1人 場 所 環境の杜ふれあい 研修室 スタッフ数 6名 広報活動 ちらし配布、新聞無料広告、ラジオ広報 【NPOマネジメント相談会】 日 時 平成21年2月23日(月)10:00～12:00 参加人数 4名(2団体) 参加者条件 1.2月22日のNPOマネジメント講座参加団体 2.団体から複数名(2名以上)での参加 3.那覇市NPO活動支援センタースタッフの同席が可能 場 所 那覇市NPO活動支援センター 同席スタッフ数 3名 広報活動 マネジメント講座にて案内
	講師	松本修一 氏(マネジメント代表)
	事業対象	県内のNPO、市民活動団体
	プログラム	【なはセンのNPOマネジメント講座「支援を募る前に足元を固めよう」】 10:00 事務局あいさつ&オリエンテーション 10:10 講師:松本修一氏による講話 「共感のマネジメントとは何か」 12:00 お昼 13:00 各団体の戦略シートを作成(団体目的の書き出し。ミッションの具体化。活動の道筋をたてる)

		<p>15:15 各団体の戦略シートをグループで共有 16:00 参加者全体で講座ふりかえり 【NPOマネジメント相談会】 10:00 相談会1「(特活)おきなわCAPセンター」 11:00 相談会2「保育すけっと in ナハ」</p>
	参加者の声	<p>(アンケートより抜粋) ・目先の事業(仕事)をこなすこと(緊急性)に向けてミッションが抜け落ちていたのではと反省。 ・自分たちのグループのミッションを再確認できて使命感がわいてきた!数字にすることの大切さ。ワークショップで他団体も同じように外からの評価や理解度がないという課題があった。 ・団体外への理解促進という意味でだれもが認知しやすい数字を使うことの重要性を感じた。 ・久々にマネジメント講座の洗礼を受け自分たちというものを直視した思いです。重要な気づきの機会を作っていただいて感謝です!</p>
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・団体より複数名で参加することで、団体のミッションや目標の確認をすることができたのではないかと。 ・団体ヒアリングから課題出しをして講座の選定できた。 ・講座参加ターゲットであった生活困窮者の支援を行っている団体からの参加がなかった。時間をとってもらえなかった。 ・広報が遅くなってしまい広報期間が短く参加者がなかなか集まらなかった。
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> ・年間で戦略シートを作成する団体を募集し、戦略が立てられるようサポートしていく。

事業区分	課題解決のためのパートナーシップ	
事業名	なはせんのNPOマネジメント講座 NPOの会計税務 信頼されるNPOの決算書	
計画	NPOと行政の協働に関する講座を行う。 協働のパートナーとしてNPOの組織力アップ、アカウンタビリティ力アップをはかる講座を行う。	
実行	取り組むべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事業規模の小さい団体だと会計税務業務を自分たちですべて行わないといけないため決算書類を作成できない。また、間違っても気づかない。 ・間違った決算書類を情報公開しても企業、行政、助成団体から協働のパートナーとして信頼されない ・団体を支えてくれる支援者や寄付者に対してしっかり会計説明できない。 ・税理士などの専門家とつながっていないため相談できる所やネットワークがない
	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOの決算業務を行うために日々の会計業務から見直す ・透明性の高い会計体系 ・支援者に伝えるための決算書の作り方
	概要	<p>日 時：3月19日（木）10：00～17：00 参加人数：25名（定員35名） 参加費：3000円 場 所：那覇ぶんかテンプス館3階会議室 広報活動： スタッフ数：4人+4人（大城税理士事務所スタッフ） 書籍販売： 「対話でわかるNPO会計」1600円（1500円）12冊/40冊 「NPO会計日誌」500円（400円）1冊/20冊 企画協力：大城税理士事務所</p>
	講師	<p>脇坂誠也さん（わきさか せいや） （NPO会計税務専門家ネットワーク理事長代理・税理士） 国際協力事業団青年海外協力隊コートジボワールに派遣。平成11年に脇坂税務会計事務所開設・「透明性の高い会計業務が出来る。」として、NPOの会計税務の支援に活躍中。「対話でわかるNPO会計」（NPO事業サポートセンター発行）著者。</p>
	事業対象	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOの会計・税務業務について悩んでいる方 ・透明性の高い会計体系を団体内で実現したい方 ・支援者に伝える決算書を作りたい方
	プログラム	<p>配布資料：NPO会計マニュアル・NPO会計日誌 早わかり認定NPO法人制度 NPO会計マニュアルに沿って脇坂さんの方で解説しながら進める</p>
	利用者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO会計の目的について改めて考え直すきっかけとなりました。情報量たくさんの資料もとても分かりやすく、これから大活躍しそうです。 ・法人税課税の対照等すごく勉強になりました。会計税務に関する事のみではなく（テキストのみ）決算書が団体の活動を多くの人に知ってもらおうアピールになる等又、アピール方法等とても勉強

		<p>強になりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本来事業とその他の事業の区別と関連が不明瞭であったが、今日の話聞いてスッキリした。NPO法と税法との違いであったこと。そのため特定非営利活動業務であっても収益事業となり課税されること。 ・行政の委託を受けた時にやはり収支計算書等の金額は重要だと思いました。作成する際は意識したいと思いました。
評価	<p>目標に対してできたこと、できなかったこと</p>	<p>目標にたいしてできたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会計マニュアルの資料が豊富であったため、会計の目的から日々の業務から見直しながら決算業務へと理解をすすめるプログラム内容であった。 ・資料が豊富であったので、決算業務に取りかかるとき調べることができる。 ・NPO会計の目的として「お金を適切に使われたことを説明する」「自分たちの団体のことを多くの人に説明する」そのことによって信用を積み重ねて、透明な会計や情報発信の必要性をもちながら会計税務の方法についての勉強をすすめることができた。 ・講座の中に沖縄県内の税理士もいたのでNPOと専門家をつなげる機会となった。 <p>できなかったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会計や税務の仕組みについて学ぶことはできたが、実際に団体の改善に役立ったのかわからない。 ・個別相談の機会がなかったので、それぞれの団体が抱えている問題点については、全体での質問でしかだせなかった。
次への展開	<p>次年度方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・決算書類作成までの勉強会は来年度も実施 ・信頼の高い決算書類をつくれるようになるためのハンズオン支援や個別相談会など団体の会計業務の課題解決につながるようなプログラムを考える。

事業区分	課題解決のためのパートナーシップ	
事業名	実務担当者交流会 NPOのマネジメント持ちよりサロン	
計画	毎回テーマを決めて、NPO事務局担当者が、運営していく上で経験した実務やマネジメントの知識や事例を「持ち寄り」、NPO同士で知識や情報を交換することによって「ヨコ」のネットワークをつくる。また、その場では解決できない課題や問題を共有し、専門家が「持ちより」学習会を開き「NPOマネジメント」の底上げを図る。相談し合うことにより参加者が育っていける仕組みをつくる。	
実行	取組むべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOの事務局担当者が孤立している。 ・事業規模が1000万くらいの団体の活動支援プログラム
	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・参加NPO団体のマネジメント力の向上と互いに相談できる体制 ・おきなわNPO事務局ネットワークのコアができる
	概要	<p>日時</p> <p>第1回 10月3日(金) 10:00~12:30</p> <p>ゲストスピーカ 下地勝さん(サポートオフィスみらい・社労士)</p> <p>テーマ 「NPO事務局のための NPOの働く環境総点検！」</p> <p>参加人数 4名</p> <p>第2回 1月30日(金) 10:00~12:30</p> <p>ゲストスピーカ 古我知浩さん(沖縄リサイクル運動市民の会)</p> <p>テーマ 「元気にNPO活動するための予算の考え方」</p> <p>参加人数 7名</p> <p>参加費 500円</p> <p>場所 那覇市NPO活動支援センター会議室</p> <p>共催 NPO法人おきなわCAPセンター</p>
	利用者の声	<p>第二回の参加者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理費という考え方に対して、意識を持って予算を立てるという考え方を持ってもらう必要があると思いました。一般の企業だと当たり前にあるものでも、NPOだと抜ける面があったので今後に活用し、指導にも力をいれます。 ・夢志金という言葉よいですね。イメージをイラストに描いて神棚に置きたいと思います。話す内容は面白かったです ・失敗の発想から自分たちの活動に制約を加えるよりも、夢の実現のために・・・というお話が印象に残りました。
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・事業企画を中堅のNPOと一緒に考え作り上げることができた。その団体が抱える組織課題が見えてきた。 ・事務局レベルでの情報交換はできたが、ネットワークをつくるまでにはいたらなかった。 ・開催時間を午前中と初めての試みだったが、あさの落ちついた時間でランチMTも出来て機会としては面白かったが、人集めには難し面もあった。
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援強化を進める

事業区分	「課題解決のためのパートナーシップ」～協働のサポート事業～	
事業名	なはセンサロン ～10年後のなはを描こう！～	
計画	行政との協働を考える際に、協働ありきではなく、地域や社会の問題がまずあり、その問題が共有されてはじめて、問題解決に向けた協働がスタートする。そこで、那覇の地域課題に向き合い、その解決に取り組む NPO・企業・行政とともに、今の那覇にどんな地域課題があるかを明らかにしていくサロンを行う。	
実行	取り組むべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 那覇の地域課題が何か具体的に説明できない現状。 ● なはセンとして、数ある地域課題の重要度・緊急度など優先順位づけができない。 ● ローカルの間支援組織として潜在的な地域課題の顕在化やその課題解決に向かう動きがなければ動きを作りだしていく必要がある。
	目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 6月より偶数月に1回、年間5回を開催する。 ● 毎回1テーマ(課題)を深め、考え、議論する場を NPO だけでなく、企業や行政からも出前講座などで情報を出してもらいながら進める。 ● 参加者同士で問題が見えたり、整理されたり、解決のためのしくみが見えたり、学びの場となったり、相談できる相手とつながるなど。
	概要	<p>プログラム概要</p> <p>Step1 現状把握・課題を整理しよう(情報提供者)行政</p> <p>Step2 今の取り組みを知ろう(情報提供者)課題に向け活動する団体</p> <p>Step3 目指す那覇を描こう</p> <p>第1回 那覇の交通の未来を描く市民活動を見る 日時：2008年6月26日(木)19時～21時 場所：那覇市 NPO 活動支援センター・フリースペース テーマ：今の那覇の交通事情は市民から何を奪っているのか 時間?お金?環境?歩く楽しみ? - 今の交通を見直し、車から脱却した未来を描こう - テーマ提案：新都心に LRT を走らせる会 情報提供者： 那覇市都市計画課道路交通政策グループ(真栄城さん) 新都心に LRT を走らせる会(富本さん) NPO 法人しまづくりネット(中村さん) 気候アクションセンターおきなわ(長田さん) 参加費：500円(資料代) 参加者：15人</p>

		<p>第2回 那覇の観光の未来を描く市民活動を見る 日時：2008年8月22日（金）19時～21時 場所：那覇市NPO活動支援センター・フリースペース テーマ：災害時、観光客はどこに逃げる？ - 障がい者、高齢者、外国人も安心して楽しめる那覇の観光とは - 情報提供者： 那覇市観光課（我謝さん） 沖縄バリアフリーツアーセンター / 代表 / 親川修さん 第一牧志公設市場組合 / 副組合長 / 粟国智光さん 参加費：500円（資料代） 参加者：15人</p>
<p>評価</p>	<p>目標に対してできたこと、できなかったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● それぞれの課題を担当する行政職員に参加してもらい、行政情報を提供してもらうことができた。 ● 一つの課題に対して、異なった立場で取り組む方々からの意見や活動について共有できた。 ● なはセンサロンだけでは、那覇の地域課題というテーマを掘り下げることには限界がある。偏りもあり、根拠づけとして無理がある。
<p>次への展開</p>	<p>次年度方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政の協働を進めていく第一歩として「地域の課題を市民個人レベルかつ市全体で共有していく」という取り組みの一つとして、なはセンサロンを位置づけ行っていくことになはセンサロンの意義を果たすことができるのではないか。

事業区分	課題解決のためのパートナーシップ事業																									
事業名	はいさい！NPO塾																									
計画	NPOの裾野を広げるため、NPOに関することに対して学ぶことができる入門講座を開催する。																									
実行	取り組むべき課題	「“NPO”という言葉はよく聞くが実際は何をしているのかわからない」「NPOの活動について知りたい」「NPO法人の設立について学びたい」というニーズはあるが、NPOの基礎から法人の設立までについて学べる機会が少ない。																								
	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOについての理解度を上げる。 ・これからNPOの立上げを考える市民の活動の一步になるようにする。 ・講座受講後にセンターにつながるようにする。 ・担当者のスキルアップにつなげる。 																								
	概要	日時 毎回奇数月、19:00～21:00開催 (3月は基礎編 10:00～12:00、法人設立編 13:00～15:00)																								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>基礎編</th> <th>参加者数</th> <th>法人設立編</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月9日</td> <td>16</td> <td>5月16日</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>7月11日</td> <td>6</td> <td>7月18日</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>9月12日</td> <td>2</td> <td>9月19日</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>11月14日</td> <td>8</td> <td>11月21日</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>3月7日</td> <td>13</td> <td>3月7日</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table>	基礎編	参加者数	法人設立編	参加者数	5月9日	16	5月16日	15	7月11日	6	7月18日	12	9月12日	2	9月19日	5	11月14日	8	11月21日	6	3月7日	13	3月7日	14
	基礎編	参加者数	法人設立編	参加者数																						
	5月9日	16	5月16日	15																						
	7月11日	6	7月18日	12																						
9月12日	2	9月19日	5																							
11月14日	8	11月21日	6																							
3月7日	13	3月7日	14																							
	実施回数 10回 参加人数 97名 参加費 各講座：500円 場所 那覇市NPO活動支援センター 会議室 広報活動 新聞無料広告、ちらし配布 スタッフ数 2名 準備物 当日資料、おきなわ市民活動NPO便利帳																									
講師	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎編：下地美香（那覇市NPO活動支援センター） ・法人設立編：宮道喜一（那覇市NPO活動支援センター） 																									
事業対象	・NPOに興味、関心のある市民																									
プログラム	基礎編「NPOって何ね？」（担当：下地美香） <ul style="list-style-type: none"> ・県内のNPO紹介 ・「NPO」言葉の意味、NPOのしくみと資金について ・NPOの社会的位置づけ ・NPOとボランティア、NPOとNGO ・NPOの数と活動分野 ・NPOの社会的役割 ・NPOはじめるときのステップ ・組織の過程「P G O C」 																									

		<ul style="list-style-type: none"> ・ N P O と 出 会 う 場、 他 機 関 と 書 籍 の 紹 介 法人設立編「N P O 法人の設立について」（担当：宮道喜一） ・ N P O の 説 明 ・ N P O 法 人 説 明、 組 織 形 態 に つ い て ・ N P O 法 人 と は 何 か？ ・ N P O 法 人 の メ リ ッ ト、 デ メ リ ッ ト ・ N P O 法 人 の 設 立 要 件 ・ 「 社 員 」 「 総 会 」 等 言 葉 の 意 味 ・ 法 人 設 立 ま で の 流 れ ・ 法 人 設 立 後 の 手 続 き ・ 申 請 書 な ど の 書 類 紹 介 ・ 定 款 に つ い て
	<p>利用者の声</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制 度 や、 う ま く い っ て い る 例 だ け で な く、 現 在 の 問 題 の 話 も し て ほ し い。 か じ り 情 報 の 認 識 し け な け だ が、 基 礎 と な る 部 分 が 見 え て と て も 勉 強 に な り ま し た。 ・ 基 礎 と な る 部 分 が 見 え て と て も 勉 強 に な り ま し た。 ・ 全 く 分 か ら ない 状 態 か ら の 参 加 で し た の で 概 要 が わ か り 楽 し か っ た。 ・ 団 体 が 設 立 す る ま で、 一 人 で 活 動 し て た 半 年 間 は ど の よ う な 活 動 を し て い た の か、 団 体 の 活 動 を 維 持 し て い く た め に、 事 務 的 な 作 業 だ っ た り 地 道 な 努 力 を し て い る 部 分 を 知 り た か っ た。 ・ 実 際 活 動 の 具 体 例 で の 会 計 ・ 収 支 が 知 り た い。
<p>評 価</p>	<p>目 標 に 対 し て で き た こ と、 で き な け だ こ と</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 か 月 に 1 度 開 催 す る こ と に よ り、 担 当 者 の レ ベ ル ア ッ プ に つ な が っ た。 ・ 講 座 受 講 後、 セ ン タ ー に 相 談 や 来 所 さ れ る 参 加 者 が 少 ない。 受 講 後 に つ な が る こ と が で き な け だ。 ・ つ な が り が ない た め、 受 講 後 に 実 際 活 動 を 始 め た の か 等 そ の 参 加 者 の そ の 後 が み え ない。
<p>次 へ の 展 開</p>	<p>次 年 度 方 針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講 座 の 開 催 は、 奇 数 月 の 第 二、 第 三 金 曜 に 分 け て 行 っ て き た が、 講 座 の 連 動 性 や 受 講 者 の 負 担 を 考 え る と 改 善 す る 必 要 が 有 る。 ・ 参 加 者 に 受 講 後、 セ ン タ ー を 利 用 し て も ら え る よ う 工 夫 が 必 要 で あり、 実 際 の 活 動 ま で ど の よ う に 関 わ っ て い く か 考 え る 必 要 が 有 る。

事業区分	参加と対話のプラットフォーム	
事業名	市民活動に関する相談、情報提供（団体・個人）	
計画	NPO や NPO を行いたい個人、企業、行政からの相談業務を行う	
実行	取組むべき課題	「市民活動を始めたいがどのように始めたらいいかわからない」「NPO 法人設営について知りたい」「現在活動している NPO について知りたい」「NPO 法人の税法・労務など運営について教えてほしい」など、個人の相談から行政・企業からの問合わせ、NPO の運営上の悩みなどがある。
	目標	・相談に来た市民が問題解決できるよう、NPO に関する情報を提供 ・NPO の運営のサポートを行う。
	概要	<p>相談体制 <u>情報提供 1（既存情報で対応）</u> 対応スタッフ：全員 取り組み： ・NPO 基礎レジュメの作成「NPO とは」「NPO 法人設立について」 ・団体紹介おきなわ市民活動 NPO 便利帳</p> <p><u>情報提供 2（情報確認、情報収集を行って対応）</u> 対応スタッフ：事業スタッフ（小阪・宮道・下地） 取り組み：講座との連携、資料収集、ネット検索、 専門家体制づくり</p> <p><u>相談対応（面談をして詳しい内容を聞き、対応回数かさねる）</u> 対応スタッフ：事業スタッフ（小阪・宮道・下地）</p> <p><u>専門家紹介（相談内容に答えられる人、団体を紹介）</u> 対応スタッフ：小坂 取り組み：社労士、税理士とのネットワーク、おきなわ市民活動支援会議（分野別支援機関との連携）</p> <p><u>個別相談対応（生活困窮者の対応）</u> 対応スタッフ：下地・稲垣・他スタッフ 取り組み：制度について情報収集をして提供、 他機関（関係 NPO・市社協へつなく）</p> <p>相談件数（2008 年 4 月～2009 年 3 月） 相談件数：171 ・団体相談(NPO 関連)：155 件 ・個別相談(生活困窮者関連)：16 件</p>
	担当者	全スタッフ
	事業対象	一般市民、企業、行政、NPO

<p>評価</p>	<p>目標に対してできたこと、できなかったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・団体問合せについては、f mなはと OCN の協働の番組づくりでスタッフが団体コーディネートを行っており、団体との関係づくりができていたため、紹介しやすかった。 ・時期ごとに相談内容の予測ができていたため、相談に対応する資料の準備ができ相談がスムーズであった。 ・スタッフ間で相談ケースについて話し合うことで「市民からの相談に対し傾聴・共感することで、解決に至らなくとも精神的な前進の一助となること」を共有し、次の相談対応力のアップにつながった。 ・情報不足により、適切な情報提供ができないこともあった。 ・NPO に関する問合わせの他に、生活困窮者からの問い合わせが多かった。提供できる情報が少なく、また2つのNPOの情報を渡す程度の対応になってしまった。
<p>次への展開</p>	<p>次年度方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが入れ替わる時には、相談の基礎を共有し対応できる体制をつくる必要がある。 ・スタッフ間での情報共有、ケーススタディーを強化し相談力(情報収集、技術)アップにつなげる。 ・生活困窮者の相談対応では、那覇市の福祉政策課・保護課、関連NPO、市社協など関係機関との連携を行っていく。

事業区分	「課題解決のためのパートナーシップ」 ～協働のサポート事業～	
事業名	アドバイザー派遣 那覇市「自治と協働のルール」策定事業 ～なはのまちを考える講座～	
実行	事業	<p>那覇市では第三次総合計画において「協働」ということばが公に使われるようになり、さまざまな「協働」の取り組みがみられるようになりました。しかし、「市民（個人、地縁団体、NPO、事業者）と行政が協働でまちづくりを推進する」ということは実際どうということなのか、具体的にどんなルールが必要なのか、両者での十分な共通認識がされていないのが現状です。</p> <p>そこで、市民と行政が「協働」や「自治」の意味や社会背景を共に学び合い、「協働のまちづくり」の意義とルールの是非について考えるために「なはのまちを考える講座」を開催します。</p> <p style="text-align: right;">（広報チラシより抜粋）</p>
	講座概要	<p>前期講座：平成20年8月～11月（全5回） 後期講座：平成21年1月～3月（全5回） 参加者：公募市民66名、市職員31名</p>
	アドバイザー派遣概要	<p>関係者会議への参加 第1回関係者会議（8/6）、第2回関係者会議（8/12）、第3回関係者会議（10/23）、第4回関係者会議（11/12）、第5回関係者会議（12/4）、なはまち講座職員研修（12/19）、第6回関係者会議（1/9）、第7回関係者会議（1/21）、拡大関係者会議（2/16）</p> <p>講座への参加&ファシリテーション 講座プログラム&講師 前期第3回講座におけるNPO7団体のコーディネートと講師。 【コーディネートNPO】 NPO法人なはまちづくりネット、NPO法人なは街角ガイド、アースの会、NPO法人みのりの会、NPO法人アンビシャス、NPO法人おきなわCAPセンター、NPO法人エイブルサポートつばさ</p>
評価	できたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 協働を考え、議論する場にNPOを主体としてコーディネートすることができた。 ● 那覇市NPO活動支援センターとして、関わることができ、次年度の協働のルールづくりを行っていく際にも当センターの位置づけをアピールすることができた。 ● 学識関係者とのつながりをつくることができた。

事業区分	課題解決のためのパートナーシップ事業	
事業名	NPOの活動サポート 「うないフェスティバル実行委員会」	
実行	事業	うないフェスティバルは1985年に第一回目を実施し今年で第24回を数える。平和を基調に、人権、子ども、福祉、環境、表現、身体など多くの課題に取り組んでいる人たちや、ものづくりの人たちが一堂に会して日ごろの活動を発表し、表現する場。毎回時代の要請に応じて様々なテーマを掲げ、共生のネットワークを広げ、多様なジャンルが出会える場を作りだしている。 うない(女)とういきいー(男)が真に尊重しあい共に生き、支え合える社会を実現するための「ネットワークづくり」の場を目指します。
	支援団体	うないネット
	概要	うないフェスティバル 日 時 10月26日(日)10:00~17:00 実施回数 24回 参加団体 43団体 来場者 参加費 1000円(出店団体) 場 所 那覇ぶんかテンプス館4階、てんぶす広場 主催 那覇市・沖縄タイムス社 うないフェスティバル実行委員会
	プログラム	テンプス前広場ステージ 10:00 子どもたちによる開会宣言 10:05 オープニングエイサー(沖縄ダルクリハビリテーションセンター) 10:20 開会セレモニー 10:35 ウクレレ演奏 城北楽踊会 11:05 人前結婚式 モードマリアージュ 11:25 指笛 指笛王国おきなわ 11:45 こども劇団 PR オフィスこころ育て 12:05 ファッションショー テンプスホールステージ 14:00 おばあの歌 古田律子 14:50 寸劇 沖縄ダルクリハビリテーションセンター 15:30 歌・ダンス みのり幼稚園 16:50 カチャーシー 17:00 閉会
評価	できたこと、できなかったこと	・てんぶす館で開催するので那覇市NPO活動支援センターも一会場として活用できた。 ・うないフェスティバル参加団体の施設利用が増えた。

事業区分	その他の事業																										
事業名	おきなわ市民活動支援会議への参加																										
計画	沖縄県内にある市民活動と毎月1回会議を持ち、各機関の活動状況や支援現場での課題についての情報交換、協働事業の実施等を行う。																										
実行	取組むべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ・県内には市民活動支援を担う機関や団体が複数存在する。市民活動の促進という点で共通理解はあるが、各機関が集まって情報交換を行う機会がない。 ・各機関だけで前県の市民活動の状況や団体の動向を把握することが困難である。 																									
	目標	県内の市民活動支援に関わる機関や団体が定期的に情報や意見交換等をして連携することで、効果的な市民活動支援を行う。																									
	概要	<p>会議開催日時 毎月1回、10:00～12:00 開催場所：沖縄県社会福祉協議会（沖縄県ボランティア・市民活動支援センター） 会議運営の役割：「進行役・議事録・議題提案」を持ち回りで担う。 実施回数 12回</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>担当者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月9日</td><td>小阪、宮道</td></tr> <tr><td>5月13日</td><td>小阪、宮道</td></tr> <tr><td>6月10日</td><td>小阪、宮道</td></tr> <tr><td>7月16日</td><td>宮道、下地</td></tr> <tr><td>8月6日</td><td>宮道</td></tr> <tr><td>9月9日</td><td>宮道、下地</td></tr> <tr><td>10月7日</td><td>小阪、宮道</td></tr> <tr><td>11月12日</td><td>小阪、宮道</td></tr> <tr><td>12月9日</td><td>小阪、下地</td></tr> <tr><td>2009年1月13日</td><td>宮道、下地</td></tr> <tr><td>2月4日</td><td>下地</td></tr> <tr><td>3月11日</td><td>下地</td></tr> </tbody> </table> <p>参加機関 8団体 ・那覇市NPO活動支援センター ・沖縄県社会福祉協議会（沖縄県ボランティア・市民活動支援センター） ・沖縄県NPOプラザ</p>	開催日	担当者	4月9日	小阪、宮道	5月13日	小阪、宮道	6月10日	小阪、宮道	7月16日	宮道、下地	8月6日	宮道	9月9日	宮道、下地	10月7日	小阪、宮道	11月12日	小阪、宮道	12月9日	小阪、下地	2009年1月13日	宮道、下地	2月4日	下地	3月11日
開催日	担当者																										
4月9日	小阪、宮道																										
5月13日	小阪、宮道																										
6月10日	小阪、宮道																										
7月16日	宮道、下地																										
8月6日	宮道																										
9月9日	宮道、下地																										
10月7日	小阪、宮道																										
11月12日	小阪、宮道																										
12月9日	小阪、下地																										
2009年1月13日	宮道、下地																										
2月4日	下地																										
3月11日	下地																										

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄N G O活動推進協議会 ・ 気候アクションセンターおきなわ ・ J I C A 沖縄 ・ NPO 沖縄ホールアース研究所 ・ ているる <p>会議の主な議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各機関や団体の年間計画や活動状況の共有 ・ 広報活動の支援 ・ 各支援現場での市民活動やその課題についての情報・意見等の交換 ・ 県内N P Oの動向について情報交換 ・ 公益法人制度改革について
	担当者	小阪亘、宮道喜一、下地美香
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内のN P Oの状況をお互いに共有することができた。 ・ 各機関の現場スタッフが定期的に会議に参加することで関係を築くことができ、日頃相談をする場合も行いやすい。 ・ 主に情報交換の場としての会議となり、連携して一つのことに取りくむ機会がなかった。
次への展開	次年度方針	引き続き、県内のN P Oについての情報や支援機関同士の取り組みについて情報交換を行っていく。

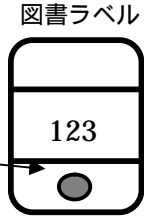

事業区分	課題解決のためのパートナーシップ事業	
事業名	NPOの活動サポート 「工賃倍増計画支援事業・ふれんど地域ネットワーク会議委員」	
実行	事業	工賃倍増計画支援事業：障害者の「工賃倍増5か年計画を推進するための基本的な指針」に基づき沖縄県障害保健福祉課、沖縄県セルフセンターが工賃倍増支援事業に取り組んでいる。 プロジェクト会議：コンサルティングの導入による工賃引き上げ目標の設定と改善計画の策定・計画の実行 地域ネットワーク会議：継続して工賃アップに資するために必要な専門家、福祉関係者、企業、行政の参加を得た地域ネットワーク会議を設置し定期的を開催する。
	支援団体	特定非営利活動法人ハンディサポートふれんど 障がいを持つ方々を対象に、住みなれた地域で、つどいの場、ふれあいの場、働く場を提供するとともに、各々の個性にあった生活の自立を支援している。
	概要	地域ネットワーク会議 実施回数 4回 日 時：第1回（9月29日） 第2回（10月29日） 第3回（12月4日） 第4回（2月20日） 場 所：那覇市NPO活動支援センター会議室
	運営委員	前田昌秀（那覇市健康福祉部 障害福祉課 課長） 島村聡（那覇市健康福祉部 福祉政策課 課長） 山城章（那覇市社会福祉協議会 地域福祉課 課長） 大城逸子（大城税理士事務所 所長） 小阪亘（那覇市NPO活動支援センター） 松葉孝雄（自然実感案内人） 宮城良子（NPO法人ハンディサポートふれんど 代表理事） 岸本栄次・山城杉子・當山美佐恵・東宏之・嘉数ゆり子 平良仁剋（中小企業診断士・産業カウンセラー）
評価	できたこと、できなかったこと	・団体個別の活動サポートニーズは高く、NPO支援センターとしてどこまで活動支援をおこなうかは、今後実績を積み重ねながら検討したい。 ・ネットワーク会議に参加して団体の内状についてより詳しくすることができ、NPOの抱えている課題について一緒に考え課題解決に向けての提案はできた。 ・この集まりは会議が目的なので事業実施まで至っていないが、事業実施に向けても支援を行えるよう情報交換を密にしたい。
次への展開	次年度方針	

事業区分	課題解決のためのパートナーシップ～協働のサポート事業～	
事業名	映画上映会参加団体募集説明会と実行委員会の実施	
計画	2009年6月14日「筆子その愛 天使のピアノ」上映会に向けて実行委員会を結成する。	
実行	取組むべき課題	・社会はまだ障がい者理解が不十分であり、障がい者が行きづらい環境である。
	目標	・福祉分野の団体だけでなく、他分野の団体も実行委員会に参加するようコーディネートする。 ・実行委員会を開催する。
	概要	【映画上映会参加団体募集説明会】 日 時 平成21年2月18日(水)18:00～ 参加人数 3団体(ハンディサポートふれんど、ピープルファーストハイビスカス、那覇市NPO活動支援センター) 場 所 那覇市NPO活動支援センター会議室 【第一回実行委員会】 日 時 平成21年3月11日(水)18:00～ 場 所 那覇市NPO活動支援センター会議室 第一回実行委員会延期(平成21年4月15日(水))
	担当者	小阪亘、下地美香、稲住光祐
	事業対象	NPO
	プログラム	【映画上映会参加団体募集説明会】 ・事務局あいさつ ・ハンディサポートふれんどよりあいさつ ・映画特集DVD鑑賞 ・自己紹介 ・現状報告 ・実行委員会に参加してほしい団体について ・上映会までのスケジュール(案) ・第1回実行委員会予定日決め
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	・実行委員会に参加する団体を5団体コーディネートすることができた。 ・上映会参加団体説明会への参加団体が少なかった。団体への広報不足がみられた。 ・平成21年3月11日(水)に第1回実行委員会を開催予定だったが、NPOや関係機関との調整等が遅れ開催することができなかった。
次への展開	次年度方針	映画上映会に向けて実行委員会を行い、実行委員が主体的に参加できるような環境をつくる。

事業区分	「NPO 情報市場」 ～集めて、伝えて、参加する～	
事業名	那覇の協働フリーペーパー「まちからコラボ」	
計画	なはセンが那覇市行政とNPOをつなぐポジションであることの優位性を活かした広報誌の制作・発行を通じて、那覇市とNPOのより深い協働を促進する。	
実行	取組むべき課題	<p>那覇市は第3次総合計画より「市民との協働」を掲げ、昨年度（2007年度）策定された第4次総合計画にも引き継がれている。しかし、部局・課の事業推進現場ではNPOとの協働の取り組みは行われてきているが、以下のような現状・課題が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 協働の必要性の理解が進んでいない。 ● 行政職員がNPOを知らない、理解できていない。 ● NPOも行政の制度や仕組みを理解していない。 ● 行政やNPOなど立場によって「協働」の捉え方が異なるために、意思疎通が図りにくい。 ● 「協働」をテーマとした講座は行っているが、地域課題を共有し、その解決のために民間組織と那覇市行政が協働するための仕組みができていない。 ● 地域課題を発見し、課題の本質を見極める力が不十分である。 ● 既に各分野において、行政とNPOの協働の取り組みがなされているが、その検証や取り組みの蓄積がされていない。
	目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民協働推進課は那覇市行政内、なはセンはNPOの協働の窓口として、協働のコーディネーターやアドバイザー機能を果たしていくための行政内・NPOのネットワークづくりやノウハウ蓄積を広報誌制作を通じて行う。 ● 市民協働推進課と一緒に取材や原稿執筆を行う。 ● これまでの協働の経験を次の展開のノウハウとして検証・共有する。 ● 協働のルールづくりに活かせる基礎資料・人的ネットワークをつみあげる。 ● 取材する中で、協働の取り組みを考えるきっかけになる。 ● 編集会議を市民協働推進課となはセンの定期的な情報交換の場へ。編集会議は、外部の人材も編集メンバーに入ってもらいながら、協働についての悩みを解決できる場へ成長させる。
	概要	<p>発行 那覇市 NPO 活動支援センター 企画・編集 NPO 法人まちなか研究所わくわく、那覇市市民協働推進課</p> <p>発行回数 年4回（7月、10月、12月、3月） 発行部数 1000部 体裁 A4・4ページ・フルカラー 印刷経費 読者層 行政職員、NPO 配付先 なはセン、那覇市庁舎各課、NPO、その他</p>
誌面内容	<p>1) 協働事例 (Vol.1-Vol.4) これまでの協働の取り組みについて、那覇市とNPOの両側面からの取材を行い、地域課題と成果を検証する。</p> <p>2) 協働パートナーバトンコラム「地域のため、思いはひとつ」</p>	

		<p>(Vol.1-Vol.4) 協働の取り組みを経験してきた行政職員とNPOスタッフによる、協働を経験しての手紙のやりとり。 3) <u>ハイサイ！協働推進員です。</u> (Vol.3-Vol.4) 協働推進員の紹介コーナー。協働の取り組みについて具体的に紹介。 4) <u>行政職員のためのNPO講座</u> (Vol.1-Vol.4) 行政職員が抱くNPOへの疑問にQ&A形式でこたえていく。協働する上で知っておくべき知識を伝えるコーナー。 5) <u>NPOスタッフのための行政基礎</u> (Vol.1-Vol.2) NPOの抱く行政への疑問にQ&A形式で、協働する上で知っておくべき行政知識を伝えるコーナー。第3号より「ハイサイ！協働推進員です」へ。</p>
<p>評価</p>	<p>目標に対してできたこと、できなかったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 協働データベースの第一歩を踏み出した。データベースの活用イメージをつくる必要がある。 ● 特集は4つとも異なる事例だった。 ● 協働の課題が一部見えてきた。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 協働事業の評価（PDCAサイクル）、指定管理者制度、協働事業経費の見積もりと分担、など ➢ 協働事業の評価については、協働研究してもよいのでは ● 取材を通して、担当課への啓発につながったのでは。 ● 中立の立場から伝える誌面というバランスをとりながら、行政とNPOの情報・意見を出していくことにばらつきがあった。 ● 取材の依頼、引き出し、確認の仕方を詰める必要がある。 ● 市民協働推進課となはセンでチームを組んで取り組むことができた。協働をテーマにしたペーパーを協働でできた。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ まちコラ以外の事業を進める上でも定期的に顔を合わせて話すことにつながった。 ● なはセンインターンに任せた記事などでインターンが学ぶ機会となった。 ● 制作に携わる人を増やしていきたい ● フルカラーで印刷した効果がどこまで出ているかわからない。 ● ターゲットに届いているのか、読者の反応をとれていない。 ● 編集会議に外部の人を入れることができなかった。学識者など入れ、事例紹介ではない「検証」の部分強化していくことが必要。視点の切り口を幅広く、評価・検証の妥当性をあげたい。 ● 検証した結果・成果、蓄積していく事例データベースをどのように活用していくか決めることが必要。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 協働のルールづくりにつながる成果を出すことが必要。
<p>次への展開</p>	<p>次年度方針</p>	

事業区分	「NPO情報市場」～集めて、伝えて、参加する～	
事業名	なはセンファイルの運用とデータベースの作成	
計画	センター内に県内NPOの団体概要を掲載してファイルを設置し、常時NPOの情報を収集し市民、行政、企業などに閲覧できるようにし団体情報発信の支援を行う。	
実行	取組むべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が団体の情報を知るツールがまだ少ない。 ・分野分けされているがわかりずらく、団体の情報が探しにくい。
	目標	<p>センターを利用している団体になはセンファイルを作成し情報発信してもらう。</p> <p>ファイルの背表紙を見やすくし、市民が団体の情報を探しやすく改善し活用できる環境をつくる。</p>
	概要	<p>登録団体数 100団体 今年度登録団体数 14団体</p> <p>登録手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 登録専用シートを記入。 2. 専用ファイルを準備し、リーフレットやイベントちらし、新聞切り抜きなど団体情報を綴る。 3. 登録後、希望があればメールボックスの使用可能。 <p>陳列方法</p> <p>分野別棚と更新棚に分ける。 更新棚は最新更新順番にファイルをならべて置く。</p>
	担当者	屋宜哲治
	事業対象	県内NPO
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の情報公開する場として使用してもらえた。 ・団体の情報収集で来所された方に団体紹介のツールとして活用してもらった。 ・センター利用団体、特に会議室利用団体は登録してもらいたかったが案内することができなかった。 ・背表紙を分野別に色分けし、団体キャッチコピーを入れることで団体ファイルを探しやすくなった。
次への展開	次年度方針	<p>会議室や印刷機利用などセンター利用している団体には登録してもらう。</p> <p>県内のNPO情報を収集するために新規で20団体に登録してもらう。</p>

事業区分	NPO情報市場事業 ~集めて、伝えて、参加する~		
事業名	資料・図書の貸し出し・閲覧		
計画	NPOに関する資料や図書を計画的に購入し、貸出及び閲覧に供する。		
実行	取組むべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOについての理解がまだ少ない。 ・NPOに関する書籍の貸出を行っている場所が少ないため、団体立上げに参考とする書籍がない。 ・県外のNPO情報を入手できる場所が少ない。 	
	目標	NPOに関する資料や書籍を貸出・閲覧できるようにし、市民が情報収集できるようにする。	
	概要	<p>貸出図書：433冊 閲覧図書：421冊 今年度貸出図書登録冊数：8冊 今年度閲覧図書登録冊数：32冊 貸出冊数：39冊 貸出図書の督促数：8人 広報：「ブクログ」でのなはセン書籍・資料紹介、センター内で書籍紹介</p> <p>貸出図書登録</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 貸出図書データベースに入力 2. 書籍に図書ラベルと貼付 3. 分野別シールを貼付 4. 書籍を分野別の本棚へ陳列  <p>閲覧図書登録</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 閲覧図書データベースに入力 2. 書籍に閲覧ラベルを貼付 3. 書籍を分野別の本棚へ陳列  <p>貸出図書の督促 貸出期間の14日を過ぎ、貸出期間を40日も返却がない場合は、ハガキで返却の督促をする。</p>	
	担当者	<ul style="list-style-type: none"> ・岸本佳子（インターンスタッフ） ・金城 悠（インターンスタッフ） 	
	事業対象	<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民 	
利用者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・閲覧のみだと思っていたが借りることもできるので助かる。 ・最新の書籍をもっと入れてほしい。 		
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログで貸出図書・資料などを登録している（ブクログ）ため、来所せずにセンターにある図書資料がわかるようになった。 ・センター内の書籍紹介をみて書籍を借りる利用者がいた。情報収集のひとつになることができた。 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書の貸し出し冊数が前年度よりも下がっており、貸出業務を行っているという広報不足がみられる。市民の情報収集のツールになっていなかった。 ・ 今年度登録している書籍冊数が少ない。計画的に書籍を購入し、新しい情報は入れ市民が見ることのできるようにする必要がある。
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい書籍を定期的に購入し、新しい情報が市民に届くようにする。 ・ 今年の倍の数の貸出冊数を目指す。 ・ センター内でスタッフのコメント付き書籍紹介やブックログで書籍を紹介し貸出を促していく。

事業区分	NPO情報市場事業 ~集めて、伝えて、参加する~																																									
事業名	市民活動団体PV作成事業																																									
計画	センタースタッフがリポーターとなり団体の活動現場に行き、市民の目線でNPOの活動を伝える。																																									
実行	取組むべき課題	市民がNPOの活動現場にふれることが少ない。 NPOにとって団体広報をする手段が少ない。																																								
	目標	・紹介するNPOが、どのような社会課題に向き合い活動を行っているのか視聴者である市民に伝わるような番組構成にする。 ・インターンスタッフ育成プログラム一つとして取り入れ、スタッフが現場のNPOを知る、つながるきっかけになるようにする。																																								
	概要	放送期間 2008年4月3日(木)~2009年3月15日(木) 放送日 毎月第3木曜 沖縄NEWS TODAY 「発見!地域のチカラ」 放送時間 1団体5分~7分、インフォメーション約1分 紹介団体 12団体																																								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>担当者</th> <th>放送日</th> <th>団体名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>山崎</td> <td>4月3日</td> <td>(特活)バリアフリーネットワーク会議</td> </tr> <tr> <td>山崎</td> <td>5月1日</td> <td>フードバンク沖縄</td> </tr> <tr> <td>稲垣</td> <td>6月19日</td> <td>沖縄自然環境ファンクラブ</td> </tr> <tr> <td>山崎</td> <td>7月17日</td> <td>県民の手による不発弾の最終処分を考える会</td> </tr> <tr> <td>屋宜</td> <td>8月21日</td> <td>ネットワークそうせい</td> </tr> <tr> <td>岸本</td> <td>9月18日</td> <td>i-Deer 舎</td> </tr> <tr> <td>山本</td> <td>10月16日</td> <td>NPOプロミスキーパーズ</td> </tr> <tr> <td>下地</td> <td>11月20日</td> <td>乳がん患者の会ぴんく・ばんさあ</td> </tr> <tr> <td>宮道</td> <td>12月18日</td> <td>うないネットワークなは</td> </tr> <tr> <td>屋宜</td> <td>1月22日</td> <td>(特活)クーパーファッションアートグループ</td> </tr> <tr> <td>金城</td> <td>2月19日</td> <td>(特活)沖縄災害救助犬協会</td> </tr> <tr> <td>稲住</td> <td>3月19日</td> <td>1フィート運動の会</td> </tr> </tbody> </table>		担当者	放送日	団体名	山崎	4月3日	(特活)バリアフリーネットワーク会議	山崎	5月1日	フードバンク沖縄	稲垣	6月19日	沖縄自然環境ファンクラブ	山崎	7月17日	県民の手による不発弾の最終処分を考える会	屋宜	8月21日	ネットワークそうせい	岸本	9月18日	i-Deer 舎	山本	10月16日	NPOプロミスキーパーズ	下地	11月20日	乳がん患者の会ぴんく・ばんさあ	宮道	12月18日	うないネットワークなは	屋宜	1月22日	(特活)クーパーファッションアートグループ	金城	2月19日	(特活)沖縄災害救助犬協会	稲住	3月19日	1フィート運動の会
		担当者	放送日	団体名																																						
		山崎	4月3日	(特活)バリアフリーネットワーク会議																																						
		山崎	5月1日	フードバンク沖縄																																						
		稲垣	6月19日	沖縄自然環境ファンクラブ																																						
		山崎	7月17日	県民の手による不発弾の最終処分を考える会																																						
		屋宜	8月21日	ネットワークそうせい																																						
岸本		9月18日	i-Deer 舎																																							
山本		10月16日	NPOプロミスキーパーズ																																							
下地		11月20日	乳がん患者の会ぴんく・ばんさあ																																							
宮道		12月18日	うないネットワークなは																																							
屋宜		1月22日	(特活)クーパーファッションアートグループ																																							
金城	2月19日	(特活)沖縄災害救助犬協会																																								
稲住	3月19日	1フィート運動の会																																								
担当者	・下地美香(那覇市NPO活動支援センター) ・小村文志(OCN 担当ディレクター)																																									
事業対象	・県内NPO																																									
取材までの流れ	1.取材担当スタッフが団体に取材依頼 2.取材団体決定 OCN小村さんへ連絡 3.団体との取材打合せ、取材の日程決め 4.取材シート(インタビューシート)の作成 5.センタースタッフ間でインタビューシートの共有 6.取材団体とOCN小村さんにインタビューシート送付。取材日の																																									

		<p>流れ、インタビュー内容の確認をしてもらう。</p> <p>7．取材当日。団体取材（活動風景の撮影、代表者、スタッフ、活動参加者へのインタビュー、担当スタッフのナレーション入れ）</p> <p>8．団体の正式名称、インタビュー受けた方の役職・名前、番組タイトルとなるキャッチコピー、これまでの活動風景写真を団体へ確認。確認後OCN小村さんへ連絡。</p> <p>9．放送日1週間前にセンターブログへアップし放送日の広報を行う。OCN小村さんへNPOイベント情報を伝える。</p> <p>10．OCN小村さんよりDVD受取り、取材団体へ渡す。</p>
	取材団体の声	<ul style="list-style-type: none"> ・取材を受けて、あらためて団体の活動を振り返ることができた。 ・DVDを団体の活動紹介を行うときに使うことができた。 ・ラジオでの言葉だけではなく、映像を映すことで活動をわかりやすく伝えることができた。 ・放送を見た利用者やその家族から多くの反響があった。 ・団体説明のナレーションや質問事項が、団体の活動内容を理解した上で作られていたので感心した。 ・メールやFAXでこまめに連絡があったので安心できた。 ・もう少し早めにDVDをいただきたい。
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・センタースタッフが団体の活動取り組みを取材し、伝えていくプロセスがあるので団体とつながりをもつきっかけとなることができた。 取材を終えた後も団体との関係が築きやすかった。 ・fmには出演した団体から取材団体を選ぶという一連のプログラムなので、さらに団体と親密になることができた。 ・取材の前後を通じて疑似的に団体の活動に参加でき団体についての理解が深くなった。 ・DVDを団体に渡すのに時間がかかった。放送月の翌月には渡せると団体も広報ツールとしてさらに活用できるのではないか。
次への展開	次年度方針	<p>センタースタッフが団体とつながりをつくったり深めることができるため、引き続きスタッフ育成プログラムの一つとして取り入れていく。</p> <p>団体へのDVDは翌月の放送までには渡せるようにOCNと調整していく。</p>

事業区分	「NPO情報市場」事業	
事業名	FMなは「NPOヒトワク」団体紹介	
計画	FMなはの「NPOヒトワク」を当センタースタッフがコーディネートし、毎週県内NPOや市民活動団体を紹介する。さらにインターンシップのプログラムとしてコーディネートのを身に付ける機会ともなっている。	
	目標	「NPO、ひと、まちをつなぐ」 沖縄県内で活躍しているNPOをラジオを通し伝えることで、団体を知るきっかけや、活動への理解を深める機会を作る。また、当センターと団体との出会う・知り合う・繋がるきっかけにする。
	概要	日 時 毎週金曜日 12:40～打合せ 13:00～13:15 生放送収録 収録場所 FMなはスタジオ(沖縄県那覇市首里池端町34-2F) 実施回数 49回 (48団体) スタッフ数 月ごとに担当スタッフ1名、 FMなは ナビゲーター 準備物 当日資料 後援・共催 株式会社FM那覇 (TEL:050-3539-1178)
	プログラム	フロー ・毎月出演者のテーマを決め、1ヵ月ほど前から出演候補団体と連絡を取り、4～5団体の日程の調整を行う。 ・当日、約20分程度の打ち合わせを行い、その後、収録&生放送。 ・収録の様子、内容を当センターブログにてアップする。 主な質問内容 ・団体についての紹介(設立日、きっかけ、目的) ・主な活動内容 ・活動を通してわかった問題点や課題 ・イベント等の紹介 ・団体のお問い合わせ先
	出演者の声	・ラジオに出演したおかげで、活動へ興味を持ってくれた人から問い合わせがあった。 ・ポッドキャストでいつでも何度でも聴くことができるので嬉しい。自分たちのHPに、そのまま貼り付けられるので便利。 ・団体の活動の紹介だけでなく、イベントの紹介・告知もできて良かった。ラジオを聞いてイベントに来たという人もいた。 ・福祉、特に介護の問題に関してラジオを通して投げかけることができた。 ・(団体の代表者以外が出ることで)中堅スタッフのいい勉強になった。
評価	できたこと、できなかったこと	・打ち合わせ等を通して、団体のバックグラウンド(どんな問題があって、どういうミッションを遂行中なのか)がわかった。 ・パーソナリティの方の相手から得たい答えを引き出す力(質問力)を学ぶことができ、OCNの取材時に役立った。 ・インターンのプログラムとして、興味のある団体とつながりを持てたこと、コーディネート経験、アポ取りや電話連絡、FAX、メールなど、これから社会で必要なことを学べたので力になり

		<p>成長につながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体と知り合うことはできているが、さらにもう1歩踏み込んだつながりにはなれていない。 ・団体の方が忙しかったり、距離が遠くて那覇まで来るのが困難だったり、出演を希望した団体さんがFM なはに出られなかったのが残念だった。 ・事務的なことでは、FM なはの場所を伝えることを忘れてしまい、団体さんが違って来てしまったこともあったため、同じミスを繰り返さぬようスタッフ全員で注意していきたい。
次への展開	次年度方針	<p>昨年通りFM なはと協力し、毎週1作品、団体の紹介番組を制作していく。より多くの団体と知り合えるよう、より関係を踏み込めるよう努力していく。</p>

事業区分	NPOゆいまーるファンド～資金の再配分によって社会を変える～		
事業名	公益信託那覇市NPO活動支援基金の運営業務		
計画	市民のお金である基金が地域課題解決を行うNPOの活力と課題解決効果を最大限に発揮できるための資金投資を行う。		
実行	取組むべき課題	・課題解決に取りくむ市民活動団体にとって事業を展開していく上で資金調達が困難である。	
	目標	・広報活動を行い20～30団体の応募申請を目指す。 ・助成金を取得した後の団体フォローを行う。 ・助成事業企画書の相談を行う。	
	概要	【基金関係行事】	
		実施日	実施内容
		5月1日～23日	次の10年の「公益信託那覇市NPO活動支援基金」制度改善に向けたアンケート調査
		5月17日	2007年度助成事業報告会開催
		5月22日	助成金説明会（那覇市社会福祉協議会）
		5月23日	助成金説明会（沖縄大学）
		5月25日	助成金説明会（那覇市NPO活動支援センター）
		5月26日～6月13日	助成申請受付期間
6月1日		那覇市NPO活動支援基金 直前講座 「想いをカタチに！助成事業企画講塾」	
7月1日～24日		「NPO知っ得パネル展」 （那覇市本庁舎ロビー）	
7月2日	申請団体説明会実施		
7月11日	公開審査会事前準備&当日スタッフ説明会		
7月13日	公開審査会開催		
* 各事業詳細は別添参照			
【2008年度那覇市NPO活動支援基金 助成内容】 申請期間 平成20年5月25日～6月13日 助成コースと申請団体数 ・いっちょやったるそ！20万コース：3団体（申請数7団体） ・ぱっちりやったるぜ！50万コース：4団体（申請数9団体） ・明日をつくるビジョンをえがけ！100万コース：1団体（申請数2団体）			
【益信託那覇市NPO活動支援基金 公開審査会】 日 時 平成20年7月13日（日）10：30～16：30 場 所 てんぶすホール 那覇ぶんかテンプス館4階			

	<p>来場者数 80名(発表団体含む) 広報活動 那覇市広報誌・メルマガ、チラシ配布、 新聞無料広告、等センタープログアップ スタッフ数 10名 共 催 三菱UFJ信託銀行 同時開催 基金10周年記念 「基金が歩んだこの10年 NPO時代にマッチング~! 」</p>																																
担当者	下地美香、山崎新																																
事業対象	那覇市民を対象とした社会貢献活動を行う市民活動団体																																
プログラム	<p>【公開審査会】</p> <p>10:00 会場 11:05 午前の部発表 いっちょやったるぞ!20万コース ばっちりやったるぜ!50万コース 13:00 午後の部発表 ばっちりやったるぜ!50万コース 明日をつくるビジョンをえがけ!100万コース 14:25 平成19年度ベスト事業賞の表彰 14:50 審査の部 助成団体の選定、発表 助成金交付証授与式 15:05 NPO交流会</p>																																
助成団体	<p>いっちょやったるぞ!・20万円コース</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>決定</th> <th>申請団体名</th> <th>代表者名</th> <th>事業名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>NPO法人 沖縄有用植物研究会</td> <td>賀川健二</td> <td>屋上・ベランダ菜園で乗り切ろう!</td> </tr> <tr> <td></td> <td>NPO法人 キャリアサポートここひら</td> <td>西坂由紀子</td> <td>那覇市立小・中学校キャリア教育支援事業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>沖縄県立看護大学サークル美ら笑ば~</td> <td>鳩間のどか</td> <td>沖縄県立看護大学サークル美ら笑ば~</td> </tr> <tr> <td></td> <td>全国要約筆記問題研究会九州ブロック 沖縄支部</td> <td>島仲則子</td> <td>那覇市登録要約筆記奉仕員スキルアップ講座</td> </tr> <tr> <td></td> <td>NPO沖縄映画資料館を造る会</td> <td>本若滋司</td> <td>回想法(昭和文化)で認知症のない町づくり事業『昭和の映画見学会と映画看板展』</td> </tr> <tr> <td></td> <td>沖縄大学 字幕つけ隊</td> <td>瀬底言</td> <td>字幕つけ映像を提供し聴覚障がい者を含む那覇市民がより多くの情報を得ることで、住みよい街づくりのための積極的な参加の促進をはかる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Stand Up.沖縄</td> <td>張本智恵</td> <td>Stand Up.ペーパー出版・イベント企画プロジェクト</td> </tr> </tbody> </table>	決定	申請団体名	代表者名	事業名称		NPO法人 沖縄有用植物研究会	賀川健二	屋上・ベランダ菜園で乗り切ろう!		NPO法人 キャリアサポートここひら	西坂由紀子	那覇市立小・中学校キャリア教育支援事業		沖縄県立看護大学サークル美ら笑ば~	鳩間のどか	沖縄県立看護大学サークル美ら笑ば~		全国要約筆記問題研究会九州ブロック 沖縄支部	島仲則子	那覇市登録要約筆記奉仕員スキルアップ講座		NPO沖縄映画資料館を造る会	本若滋司	回想法(昭和文化)で認知症のない町づくり事業『昭和の映画見学会と映画看板展』		沖縄大学 字幕つけ隊	瀬底言	字幕つけ映像を提供し聴覚障がい者を含む那覇市民がより多くの情報を得ることで、住みよい街づくりのための積極的な参加の促進をはかる		Stand Up.沖縄	張本智恵	Stand Up.ペーパー出版・イベント企画プロジェクト
決定	申請団体名	代表者名	事業名称																														
	NPO法人 沖縄有用植物研究会	賀川健二	屋上・ベランダ菜園で乗り切ろう!																														
	NPO法人 キャリアサポートここひら	西坂由紀子	那覇市立小・中学校キャリア教育支援事業																														
	沖縄県立看護大学サークル美ら笑ば~	鳩間のどか	沖縄県立看護大学サークル美ら笑ば~																														
	全国要約筆記問題研究会九州ブロック 沖縄支部	島仲則子	那覇市登録要約筆記奉仕員スキルアップ講座																														
	NPO沖縄映画資料館を造る会	本若滋司	回想法(昭和文化)で認知症のない町づくり事業『昭和の映画見学会と映画看板展』																														
	沖縄大学 字幕つけ隊	瀬底言	字幕つけ映像を提供し聴覚障がい者を含む那覇市民がより多くの情報を得ることで、住みよい街づくりのための積極的な参加の促進をはかる																														
	Stand Up.沖縄	張本智恵	Stand Up.ペーパー出版・イベント企画プロジェクト																														

決定	申請団体名	代表者名	事業名称
*1	識名園友遊会実行委員会	真禎城嘉政	第10回 識名園友遊会
	久茂地小学校PTA	渡久地保雄	PTA活動を見直し、地域づくりにつながるワークショップ&サミット開催
	地域学校支援研究フォーラム	野原正徳	学校を拠点とする子どもの学業支援の充実と親の子育て支援の拡充
	那覇市ウォーキング協会	大城貞彦	那覇市ウォーキング協会設立5周年記念うまんちゅウォーク大会
*2	沖縄県健康管理士会	照屋希曜誌	那覇市における基本健康診査受診数改善活動事業
	特定非営利活動法人一十	崎原多順	ちむぐるの気持ちで！！
	ベビーキッド	三宅恵理	親子で笑顔になる絵本作りインストラクター養成講座
	ドラマフェスティバル実行委員会	比嘉正央	人格形成教育の推進活動
	沖縄自然環境ファンクラブ	藤井晴彦	「市民参加型水辺のビオトープづくりガイド」作成事業

*1. 投票が同数の為 50 万を折半。25 万の助成。
*2. 折半の 25 万の助成だったが、助成を棄権。

決定	申請団体名	代表者名	事業名称
	NPO法人 おきなわCAPセンター	長田清	ワークショップの提供から事務部門まで人材育成でネットワーク事業
	NPO法人 HIV人権ネットワーク沖縄	平良一彦	エイズ・人権に関する啓発活動

参加者の声	<p>(来場者)・様々な団体の様々な活動の概要が見れてよかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申請団体のパフォーマンスがユニークで印象的だと感じた。熱意が伝わってきた。審査会を通して様々な活動を知ることができ継続して活動事業を見ていきたいです。 ・10年の歩み今後の基金のあり方アンケートなど工夫がよかった。 ・関係者以外の方がもっとたくさん来場してくれるようなPRをする必要がる。 ・プレゼンの時間と別に団体を知る時間がほしい
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・当日スタッフ間での連携がよくトラブルなく公開審査会を終えることができた。 ・10周年企画として作成して10年年表は基金を振り返れる機会になった。しかし、作成に時間がかかりスタッフに負担がかかった。 ・広報が足りず、目標にしていた20~30団体の申請までにはいかなかった。

		<ul style="list-style-type: none"> ・助成事業のイベント等には参加したが、助成が決まった後の団体へのフォローができなかった。
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> ・助成を取得した団体とのつながりを持ちフォローしていくようにする。 ・広い広報を行い25団体の募集申請を目指す。

事業区分	NPO ゆいまーるファンド	
事業名	公益信託那覇市 NPO 活動支援基金 第2回 市民提案・協働型まちづくり助成コース	
計画	「市民の手によるまちの再生事業」をテーマに、地域で暮らす人たちが自らの手で、地域の多様な担い手（地縁組織、NPO など）とネットワークを活かし、市民の力によるまちをリノベーションするハード整備事業に対して助成を行う。 助成金額 50 万円～300 万円（年間総額 500 万円）	
	目標	<ul style="list-style-type: none"> ハード助成を担える申請団体を集める。 ハード事業を通じて行政との協働の場面をつくり、市民協働推進課と那覇市 NPO 活動支援センターがコーディネートする。
	概要	<p>助成説明会の実施 日 時：8 月 1 日（金）19:30～20:30 参加人数：3 人 場 所：那覇市 NPO 活動支援センター会議室 内 容：那覇市における市民提案のまちづくりハード整備事業に対して助成を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2008 年度助成団体の活用事例報告（NPO 法人首里まちづくり研究会、沖縄自然環境ファンクラブ） 助成金額：50 万円～300 万円 応募期間：8 月 1 日～29 日 後援・共催：那覇市・三菱 UFJ 信託銀行 <p>ハード助成申請団体 0 団体 問合せは 4 団体ほどあったが申請までに至らなかった。 よって、公開プレゼンテーション&審査会は実施せず</p>
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<p>目標に対してできなかったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> 申請団体を集めることができず助成金を拠出することができなかった。 申請できる団体は、NPO のほか自治会もできるが情報がいきとどいてなかった。 年 2 回の助成金の募集は事務局負担が大きく 1 回目に比べて広報に力をいれることができなかった。 ハード助成は窓口が行政なため役割分担にがうまくできずお互いに意思疎通をかけた。
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> ソフト助成の公開審査会の時に公開プレゼンテーションを実施することによって、ソフト助成団体にもハード助成の存在についてしてもらえる機会になるようにする。 申請時期をソフト助成と同じにすることによって合わせて助成を受けることができるプログラムとする。

事業区分	NPO ゆいまーるファンド	
事業名	公益信託那覇市 NPO 活動支援基金 基金運営委員会	
計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・公開審査会における審査の実施 ・次年度の基金の募集要項の決定 	
	内 容	公益信託 那覇市 NPO 活動支援基金の助成事業を円滑に行うために、三菱 UFJ 信託銀行、那覇市と協力して運営委員会を開催する。
実 行	概 要	実施回数 2回 日 時：7月13日(日)第1回運営委員会 「公開審査会」 2月17日(火)第2回運営委員会 「平成21年度募集要項について」 場 所：那覇市 NPO 活動支援センター会議室 後援・共催：那覇市・三菱 UFJ 信託銀行
	運営委員	<ul style="list-style-type: none"> ・真喜屋 光子 那覇市女性問題会議会長 ・石田 穰一 エッセイスト ・渡久地 澄子 沖縄県女性団体連絡協議会 事務局長 ・田端 温代 NPO なはまちづくりネット代表 ・稲垣 純一 国際電子ビジネス専門学校 ・稲福 政賢 那覇市市民文化部長 ・松本 哲治 NPO 法人ライフサポートてだこ ・宮里 由紀子 エグゼカティブ・リンク ・横山 芳春 宇栄原小学校 校長
	事務局	事務局 三菱 UFJ 信託銀行：牧瀬充典、鈴木信夫、江川康治 那覇市市民協働推進課：照屋初美、松田幸枝 那覇市 NPO 活動支援センター：小阪亘、下地美香

事業区分	「NPOゆいまーるファンド」 ～資金の再配分によって社会を変える～	
事業名	多様な主体との協働による政策研究事業 「新しい公共における活動団体の資金支援策 ～公益信託那覇市NPO活動支援基金の今後のあり方を検討する～」	
計画	NPOへの資金支援の実態を調査し、NPO活動の実態・ニーズに則しているのか、那覇市NPO活動支援基金を含めた資金支援の在り方について提言する。	
実行	取組むべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 助成金という方法によるNPO向けの資金提供は沖縄県内においても行われているが、どの程度資金が投入されているか、またその成果の検証が行われていない。 ● 地域課題解決のためにその資金がNPOによって最大限に活用される状態が望ましいが、助成する側単独の取り組みでは限界がある。情報やニーズの共有、助成金担当者の悩みを解決できる場が求められている。
	目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 県内助成金担当者との顔の見える関係を築き、悩みや課題を共有する。 ● 助成金プログラムを設計していくためのポイントや全国の動向を把握する。 ● 助成金担当者の次年度のアクションにつながる。
	概要	<p>体制 NPO法人まちなか研究所わくわく 那覇市市民協働推進課、経営企画室</p> <p>民間助成プログラム担当者ヒアリング 10 機関 - 平成 21 年 1 月～2 月</p> <p>助成 NPO ヒアリング 5 団体 - 平成 21 年 2 月～3 月</p> <p>NPOへの資金提供プログラム担当者連絡会 - 第 1 回 2 月 13 日（金）「助成プログラムと課題の共有」 参加者 6 名 - 第 2 回 3 月 26 日（木）「1 歩進んだ社会貢献活動に向けて」 講師：古瀬繁範氏（NPO 法人地球と未来の環境基金） 参加者 7 名</p> <p>公開座談会！那覇市長と語る NPO の未来 「那覇市での NPO・市民活動の役割と社会環境」 - 平成 21 年 3 月 28 日（土）参加者 18 名</p>
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 沖縄県内で NPO への資金提供プログラムを担当している担当者と顔の見える関係をつくれた。 ● 今回把握できた沖縄県内の助成プログラムだけでも 7800 万円という金額が市民活動へ投入されていることがわかった。 ● 古瀬氏を講師で迎えることで、全国の動向として、資金提供したその先にある社会へのインパクト・成果の検証が大きな課題であることを共有できた。また、助成金プログラムの制度設計について沖縄県内の助成金担当者 6 名が学ぶことができた。 ● NPO への資金提供プログラム担当者連絡会において、次年度もこうした担当者同士の意見交換の場は必要、との認識は共有され、なんらかの形で継続することに対して合意を得られた。 ● 市長と NPO の座談会を開催することで、那覇市の NPO や那覇市 NPO 活動支援基金の現状について翁長那覇市長に伝えること

		<p>ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 助成金担当者の異動によって関係がすぐに切れてしまうことは課題である。
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 各助成プログラムで助成を受けた団体の共通の事業報告会の開催などの開催。 ● 助成を受けた NPO が助成事業活動を公益ポータルサイトへ投稿するしくみをまずは那覇市 NPO 活動支援基金から実践する。

事業区分	企業活力	
事業名	地域公益ポータルサイトを実現する会	
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄版の地域公益ポータルサイトを実現するために関係者を集め意見交換する。 ・次年度実現するための体制をつくる 	
実行	取組むべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ×伝わらない（NPOの情報公開・発信力が弱い） ×信用されない（あやしい団体という疑惑一部の大きな全国組織しか信用されない） ×支えられない（地域社会や支援より）
	目標	<p>伝わる（第3者機関で情報発信をする仕組みを持ち、社会の共感を育てる。）</p> <p>信用される（NPOの信頼性を向上させる。）</p> <p>支える（地域社会資源の循環を促す。持続可能なポータルサイト運営を行う。）</p>
	今年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、行政、社協、NPOが共通の場で話せる関係をつくる ・次年度実現に向けて体制と資金調達をする
	概要	<p>日時 別紙会議録参照</p> <p>実施回数 8回（月1回ペースで開催）</p> <p>場所 沖縄県ボランティア・市民活動支援センター 那覇市 NPO 活動支援センター</p>
	メンバー	<ul style="list-style-type: none"> ・渡真利（沖縄県） ・佐脇（沖縄県ボランティア・市民活動支援センター） ・照喜名（NPO 法人アンビシャス） ・平良（FM なは） ・翁長（シーポイント） ・玉盛（那覇市秘書広報課） ・小阪、宮道、稲垣、東濱（那覇市 NPO 活動支援センター）
評価	目標に対してできたこと、できなかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に会議を持つことによってそれぞれの立場でのポータルサイトへの意見や専門性をもって事前に意見共有とリスク分析することができた。 ・県外の動きを金森氏（SDF）中間支援 NPO の地域ポータルサイトウエイ戦略に参加し全国の流れや取り組みの情報を得、実現する会にも反映することができた。 ・実現する会の意見交換から FM なはとパートナーシップを組みながらの実施体制ができた ・実施するための資金めどはついていない
次への展開	次年度方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと雇用再生特別給付金を那覇市に提案し事業化。 ・事業委託を受けて地域公益ポータルサイトの資金源とする。

会議実施記録

第1回実現する会

日時：平成20年9月24日(水)10:00~12:00

場所：那覇市NPO活動支援センター会議室

議題：オリエンテーション・公益ポータル実現のポイント・実現したい世界・解決したい課題

第2回実現する会

日時：平成20年10月21日(火)10:00~12:00

場所：沖縄県ボランティア・市民活動支援センター

議題：課題を深める

第3回実現する会

日時：平成20年11月18日(火)10:00~12:00

場所：沖縄県ボランティア・市民活動支援センター

議題：ポータルサイトの作成・運営費・アンビシャス寄付

第4回実現する会

日時：平成20年12月17日(水)16:00~18:00

場所：那覇市NPO活動支援センター会議室

議題：企画書について・まちのタネ通信機能・実現するために

第5回実現する会

日時：平成21年1月14日(水)10:00~12:00

場所：那覇市NPO活動支援センター会議室

議題：企画書について・公益ポータルの提案(まちのタネ通信)(平良)・立ち上げ資金
NPOへのヒアリング

第6回実現する会

日時：平成21年1月27日(火)10:00~12:00

場所：那覇市NPO活動支援センター会議室

議題：立ち上げ資金について・ポータルの仕組みについて

第7回実現する会

日時：平成21年2月10日(火)10:00~12:00

場所：那覇市NPO活動支援センター会議室

議題：金森さんと沖縄版ポータルの企画打合せ

第8回実現する会

日時：平成21年3月10日(火)10:00~12:00

場所：那覇市NPO活動支援センター会議室

議題：中間支援NPOの地域ポータルサイト運営戦略 in 宝塚について
ポータルの仕組みについて・立ち上げ資金について



那覇市NPO活動支援センター事業

平成 22 年度事業報告書

平成 23 年 3 月

発行：那覇市NPO活動支援センター

(指定管理者 特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく)

〒900 - 0013 那覇市牧志 3 丁目 2 - 10 ぶんかテンプス館 3 階

TEL:098 - 861 - 5024 FAX : 098 - 861 - 5029

E-mail : nahanpo@ybb.ne.jp